

史跡 斎宮跡

県道南藤原・竹川線発掘調査報告

1991.3

斎宮歴史博物館

は じ め に

平成元年、国史跡斎宮跡は記念すべき指定10周年を迎えるにあたり、かねてより多くの県民の念願であった斎宮歴史博物館が開館し、新しい1ページを開くこととなりました。今後は史跡斎宮跡に対する各位のさらなるご支援・ご理解をいただくべく、関係者一同、一層の努力を重ねていく所存であります。

さてこのたび、斎宮歴史博物館の開館にあわせて、大型バスや自家用車による博物館へのアクセス面の充実と、地元住民の方々の生活環境整備の両面から要望の強かった県道南藤原・竹川線のうち延長約450mについて、拡幅整備が行われることとなりました。もとより、今回の事業範囲は史跡の指定範囲であり、事前の発掘調査を実施し、遺構の分布の実態を充分に把握した上で、現況の地表面よりもさらに盛土を行う工法により遺構の保護にもつとめた事は言うまでもありません。昨年度までの「歴史の道」の整備とともに、史跡の来訪者、地元住民の方々にひろく活用され、将来の史跡整備への橋渡しとなる事を願ってやみません。

つきましては、ここに調査成果を公開し、多くの方々の活用に資するため、この県道拡幅整備に先立つ発掘調査の報告書を刊行いたします。今回の調査地は事業の性格上狹隘なものであるため、個々の部分ではまだまだ実態の解明に至りませんが、史跡斎宮跡の調査および整備に対する皆様のご理解へのささやかな一助としていただければ幸甚です。

最後になりましたが、日頃から史跡斎宮跡の調査・整備にご指導を賜っております文化庁や斎宮跡調査指導委員会の諸先生、発掘調査にご理解・ご協力をいただいた三重県土木部、地元明和町の皆様方に深くお礼を申し上げます。

平成3年3月

斎宮歴史博物館

館長 中林昭一

例　　言

- 本書は国指定史跡「斎宮跡」内における県道南藤原・竹川線改良事業に伴う事前発掘調査の成果をまとめたものである。
- 発掘調査は、三重県教育委員会が主体となり、斎宮歴史博物館が担当した。各調査の期間・面積等は表1に示した。
- 調査にあたっては松阪土木事務所及び明和町斎宮跡保存対策室（平成2年11月より教育委員会斎宮跡対策課）の協力を得た。
- 現地調査・遺物整理及び本書の作成は斎宮歴史博物館調査課が次により当たった。
平成元年度　田阪　仁・泉　雄二・上村安生・御村充生
平成2年度　谷本鉄次・倉田直純・上村安生・御村充生・久保勝正
また、次の諸氏の協力を得た。
吉水康夫・野原宏司・大川勝宏・森田幸伸・中野敦夫・森脇景子・赤岩　操
大瀧靖子・島村紀久子・角谷和代・鈴木美智子・奥田康子
- 本書に使用した遺構表示等は三重県教育委員会刊行の斎宮跡発掘調査概報に準じている。
- 遺構・遺物の時期区分は、三重県教育委員会刊行の史跡斎宮跡発掘調査概報（1984年度）収録の「斎宮跡の土師器」に準拠している。
- 出土遺物及び図面・写真等の記録類は全て斎宮歴史博物館に於いて保管している。
- 調査に要した費用は全て三重県土木部の負担による。

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地籍・地番	所有者
76-15	6ABF~6ABH	1,043m ²	H 1.1/26~3/31	明和町竹川字中垣内地内	三重県
81-2	6ABJ, 6ABK	1,040m ²	H 1.4/1~8/30	明和町竹川字古里地内	♦
81-9	6ACF	840m ²	H 1.12/14~H 2.1/30	明和町竹川字中垣内地内	♦
85-1	6ABD, 6ACD	303m ²	H 2.7/10~11/2	明和町竹川字古里地内	♦

表1 発掘調査区一覧

目 次

I. 前 言	1
II. 調査の結果	
(1) 遺 構	2
① 弥生時代の遺構	
② 奈良時代の遺構	
③ 平安時代の遺構	
④ 鎌倉時代の遺構	
⑤ 室町時代の遺構	
(2) 遺 物	17
① 弥生時代の遺物	
② 奈良時代の遺物	
③ 平安時代の遺物	
④ 鎌倉時代の遺物	
⑤ 室町時代の遺物	
III. 調査のまとめ	27

表・挿図目次

表 1. 発掘調査区一覧	i
2. 時期別遺構分類表	2
3. 古里・中垣内地区周辺の平安時代掘立柱建物一覧	27
4. 出土遺物(土器)觀察表	29
5. 掘立柱建物一覧表	32
図 1. 斎宮跡位置図 (1 : 40,000)	1
2. 調査区位置図 (1 : 4,000)	3
3. 奈良時代古道周辺遺構実測図 (1 : 100)	4
4. 遺構実測図 1 (1 : 200)	5 ~ 6
5. 遺構実測図 2 (1 : 200)	7 ~ 8
6. 遺構実測図 3 (1 : 200)	9 ~ 10

7. 遺構実測図 4 (1 : 200)	11~12
8. 遺構実測図 5 (1 : 200)	13~14
9. S X 6320実測図 (1 : 40)	15
10. 出土遺物実測図 1 (SK6384)	17
11. 出土遺物実測図 2 (SX6392)	17
12. 出土遺物実測図 3 (SK6318)	18
13. 出土遺物実測図 4 (SK6344 · SD6366 · SK6386 · SD6388 · SD6396 · SD6399)	19
14. 出土遺物実測図 5 (SK6328 · SK6356 · SE6339)	20
15. 出土遺物実測図 6 (SX6320 · SX6326 · SD6349 · SK6368 · SK6364)	22
16. 出土遺物実測図 7 (SK6350 · SK6370)	23
17. 出土遺物実測図 8 (SK6348 · SK6374)	24
18. 出土遺物実測図 9 (SK6376 · SK6377)	25
19. 出土遺物実測図10 (SK6377 · SD6379 · SK6364 · SK6354)	26
20. 室町時代土塙出土土器構成比率	27

写 真 図 版

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1. 上左：1区北半全景（南から） | 上右：1区全景（南から） |
| 下左：5区全景（東から） | 下右：5区東半（東から） |
| 2. 上左：6区全景（北から） | 上右：10区全景（南から） |
| 下：10区S X 6320（北から） | |
| 3. 18区全景（北から） | |
| 4. 上：18区南半（北から） | 下：18区S E 6339（東から） |
| 5. 上：19区S D 6337（北から） | 下：20区S D 6343（北から） |
| 6. 上：20区奈良時代古道周辺（北から） | 下：20区S B 6380（北から） |
| 7. 上：20区S B 6382（北から） | 下：23区S D 6379 · S D 6383（北から） |
| 8. 出土遺物（S X 6392 · S K 6318 · S K 6356） | |
| 9. 出土遺物（S K 6318 · S K 6344 · S D 6366 · S E 6339） | |
| 10. 出土遺物（S X 6320 · S X 6326 · S K 6370） | |

I. 前　　言

県道南藤原・竹川線は平成元年10月に開館した斎宮歴史博物館を中心に史跡環境整備をすすめている古里地区に接する道路であり、来館者のアクセスに供されるとともに、史跡西部の住民にとって重要な生活道路でもある。この県道のうち約450mを整備地区と調和したものとするため、道路の拡幅・歩道の設置・既設側溝の改良をおこなう史跡現状変更等許可申請書が同元年1月三重県から提出された。工事は、遺構を破壊しない工法が取られることとなったが、3,000m²近い面積が対象となっており、埋蔵文化財の実態が判明していない部分であるため、三重県土木部が調査費用を負担し、斎宮歴史博物館を調査担当として平成元年から2年にかけて4次の発掘調査が行われた。各調査の期間・面積は表1の通りである。

古里・中垣内地区は、史跡斎宮跡の調査の端緒となった地区であり、今回の調査地の西側一帯で昭和46年から49年にかけて当初古里遺跡として第2・3・4・5・7次調査が実施され、奈良時代・鎌倉時代の大溝をはじめ、奈良時代に遡ると考えられている古道側溝S D170、奈良時代・室町時代の掘立柱建物群、室町時代のものと考えられる区画溝などが発見されている。また、博物館建設に先立って実施された第67・68・71・72・74次調査では、奈良時代の堅穴住居や飛鳥時代～平安時代の掘立柱建物、奈良時代の大溝の延長とみられるS D4500が発見されている。今回の調査に先立っては、鎌倉時代の大溝の他、主に奈良時代および鎌倉時代の遺構が発見されるものと予想された。



図1 斎宮跡位置図 (1 : 40,000 / 帝国陸地測量部 1 : 20,000 地形図より)

II. 調査の結果

今回の現状変更にともなう発掘調査は、3ヶ年度、4次にわたっている。また、同じ調査次数の中でも複数のトレーニングにわかれしており、調査区は25ヶ所になる。本報告ではこれらの記載が煩雑になるのを防ぐために全体を通して北から調査区を数字で表示する事とした。各調査次数との対応は図2および図4～図8に示した。

(1) 遺構

① 弥生時代の遺構

第24区のS X 6392がある。直径約40cm、深さ約20cmの円形のピットで、調査区を一部西に拡張して全体を検出した。中に弥生時代中期後半の壺形土器(2,3)が置かれ、壺棺墓の可能性がある。

② 奈良時代の遺構

掘立柱建物1棟、土塙14基、溝9条がある。

第19区のS B 6340は塚山2号墳の東方に位置する掘立柱建物で、3間×(1)間分が検出された。東あるいは東西両方向に2間以上のびる総柱建物になる可能性もある。柱穴は径約60cmほどである。

土塙・溝についてはまとめて遺物が出土したものについて記述する。第5区のS K 6310は直径約2.1m、深さ約30cmの円形のもので、土師器・須恵器が出土しており、前期に属すると

△	遺構の種類					
	S B	S K	S E	S X	S D	
弥生時代	6340	6310 6318 6319 6329 6330 6331 6332 6344 6345 6353 6367 6386 6387 6388 6389 6395			6392	6311 6360 6363 6366 6396 6398 6399 6400 6402 6403
奈良時代	6380 6382	6328 6356 6361 6378 6384 6385 6390	6339 6341		6383	
平安時代		6317 6322 6351 6362		6320 6326	0005 6313 6314 6315 6321 6323 6325 6335	
鎌倉時代		6342 6347 6348 6350 6352 6354 6355 6357 6458 6359 6364 6368 6369 6370 6371 6372 6373 6374 6376 6377	6375		6337 6338 6343 6346 6349 6379 6390 6381	
室町時代		6324		6327		
近世以降						

表2 時期別遺構分類表

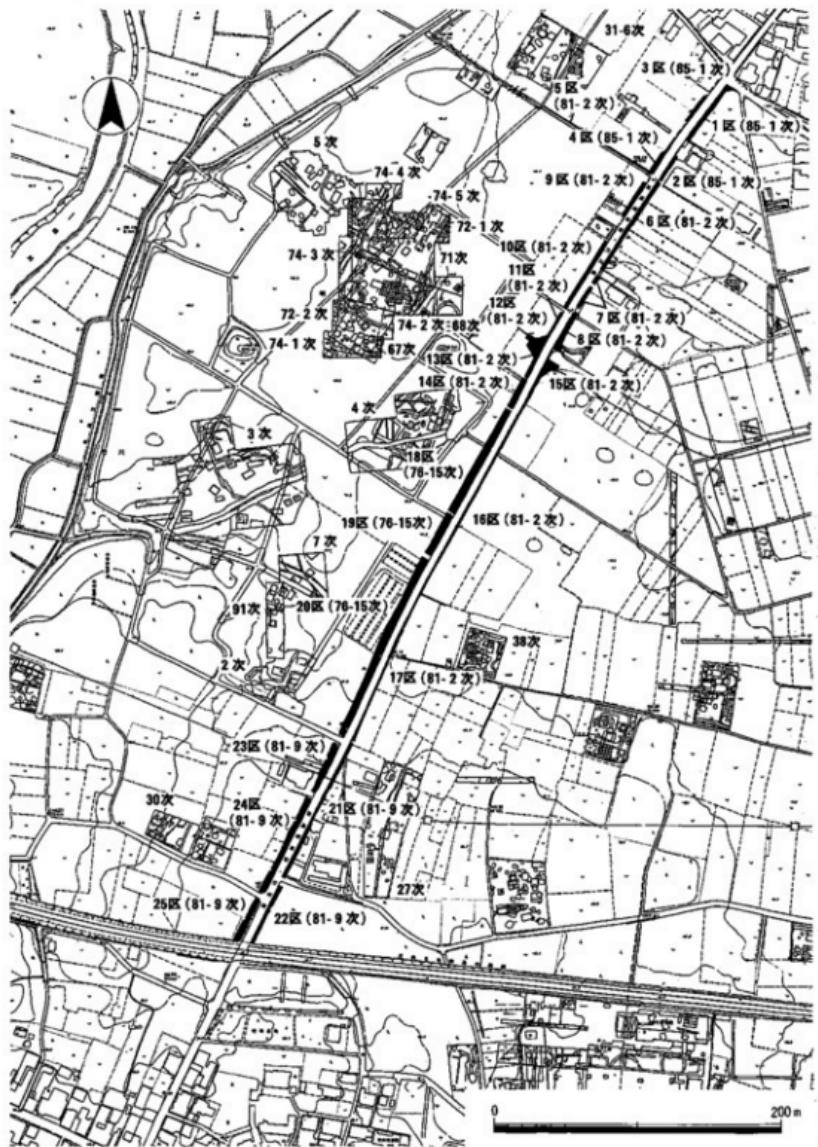


図2 調査区位置図 (1 : 4,000)

みられる。第6区のSK6318は長径約2.3m、短径約0.8m、深さ10cm程の長楕円形の落ち込み状の土塙で、後期の土師器杯・皿・甕・壺、須恵器壺・壺などが出土している。第12区のSK6329は直径約1.4m、深さ約30cmのいびつな円形土塙で、土師器皿・壺片が出土している。この周囲には不整形の土塙SK6330やSK6331もあり、いずれも後期とみられる土師器片が出土した。第19区のSK6344は径約2.1m×約1.8m、深さ約40cmの円形土塙で、前期の土師器類が出土する。第23区のSK6386は、調査区をやや西に拡張して約1/2程度を検出した。南北約3.3m、東西は検出分で1.7m、深さ約30cmで底部は平坦になる。中期の土師器杯・甕の他、朱の付着した須恵器片が出土している。同区のSK6388は直径2.1m×1.7mの楕円形土塙で、中期とみられる土師器類・須恵器類が出土している。

第20区のSD6366は、調査区を横断する幅約1.1m、遺構面からの深さ約1.2mの断面逆台形の溝で、底部の幅は約0.7mある。SD6366は調査区の北側で約7mの間隔をおいて並行するSD6360とともに、これまでの斎宮跡の調査で確認されているSD170同様奈良時代の古道側溝と考えられるものである。このSD6360、SD6366の他、SD6363からは、奈良時代中期の土師器類が出土している。第1区のSD6396は幅約60cm、深さ約25cmの溝で、北西から南東の方向に弧状に延び、土師器類が出土している。

③平安時代の遺構

掘立柱建物2棟、井戸1基、土塙7基、溝1条がある。

第20区のSB6380は南北の3間分のみが見つかっている。東西いずれの方向にのびるのかは

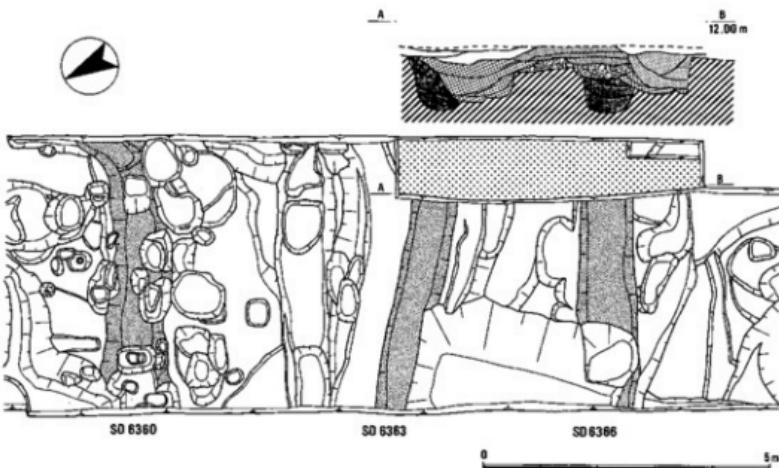


図3 奈良時代古道周辺遺構実測図（1：100）

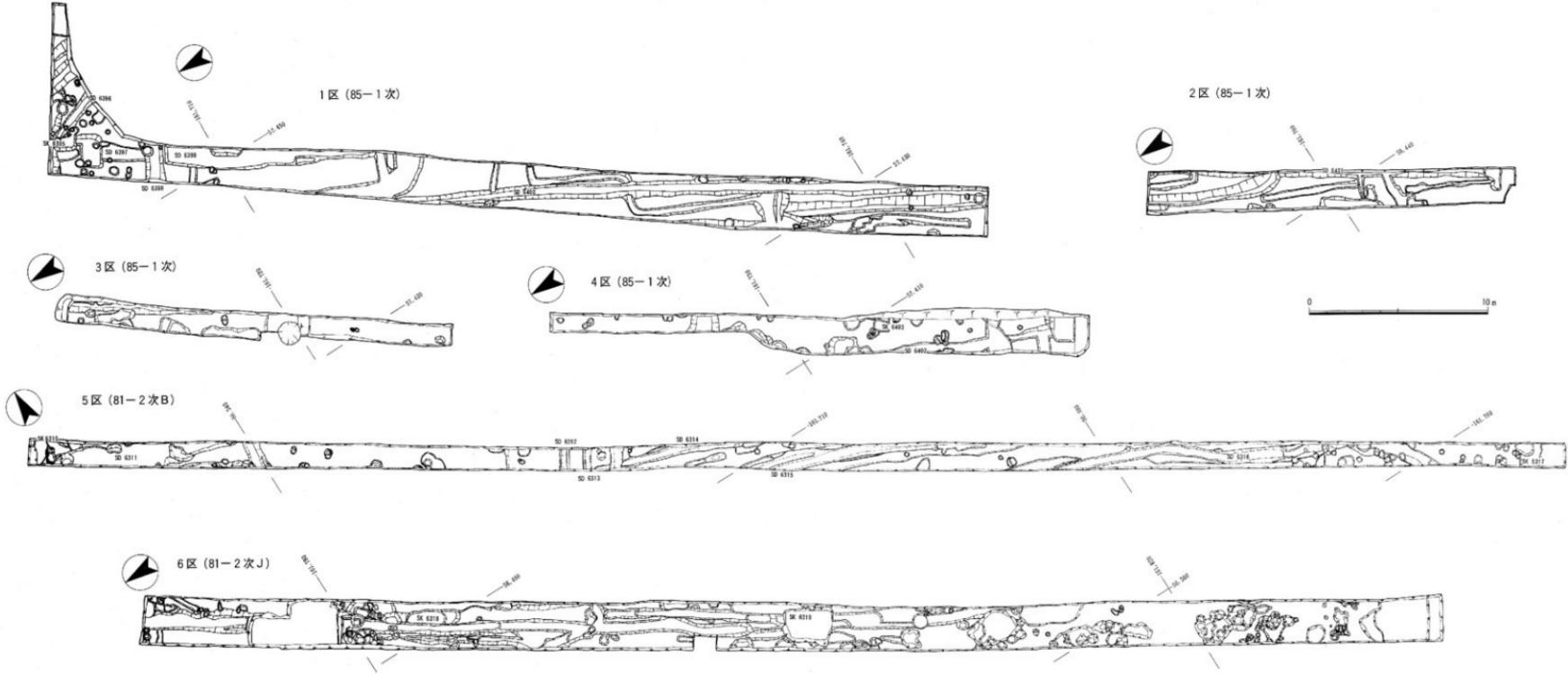


図4 道横実測図1 1区・2区・3区・4区・5区・6区 (1:200)

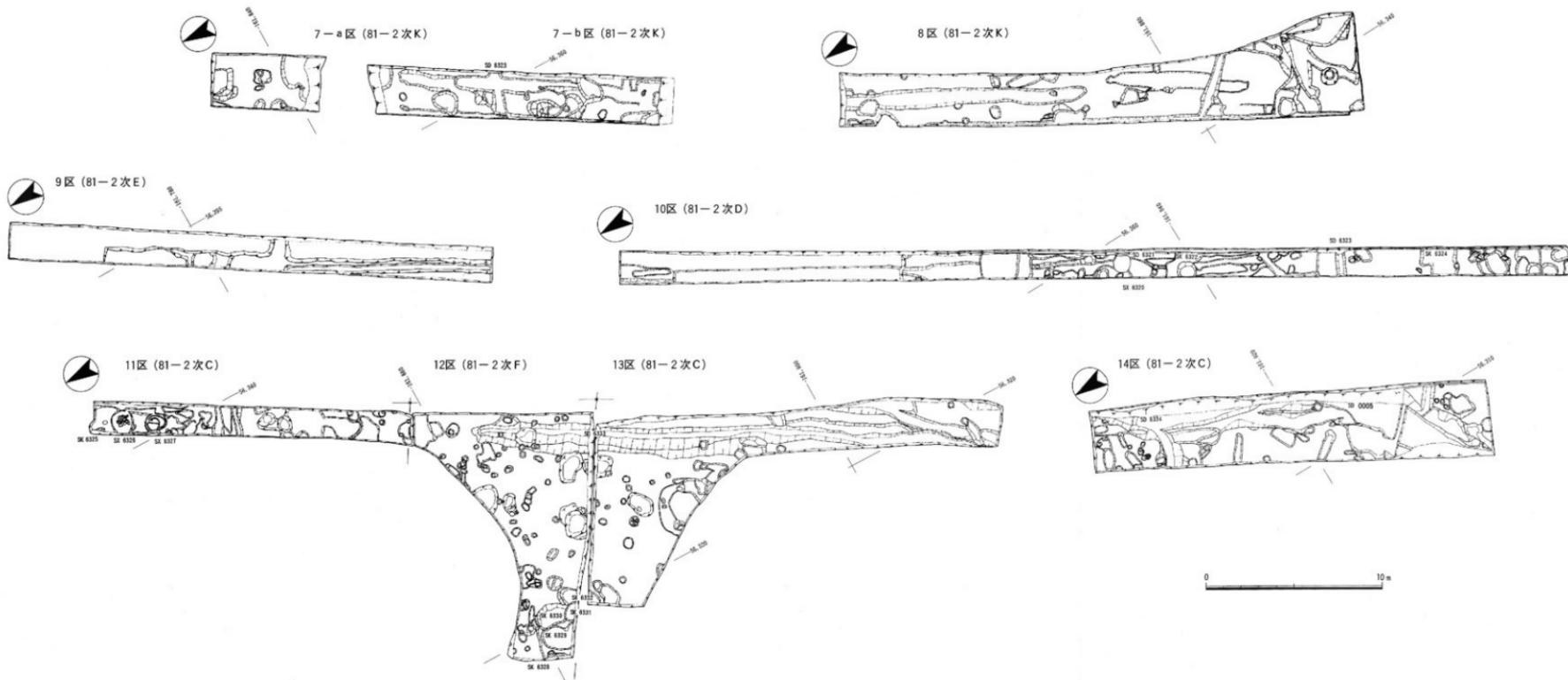


図5 遺構実測図2 7-a区・7-b区・8区・9区・10区・11区・12区・13区・14区 (1:200)

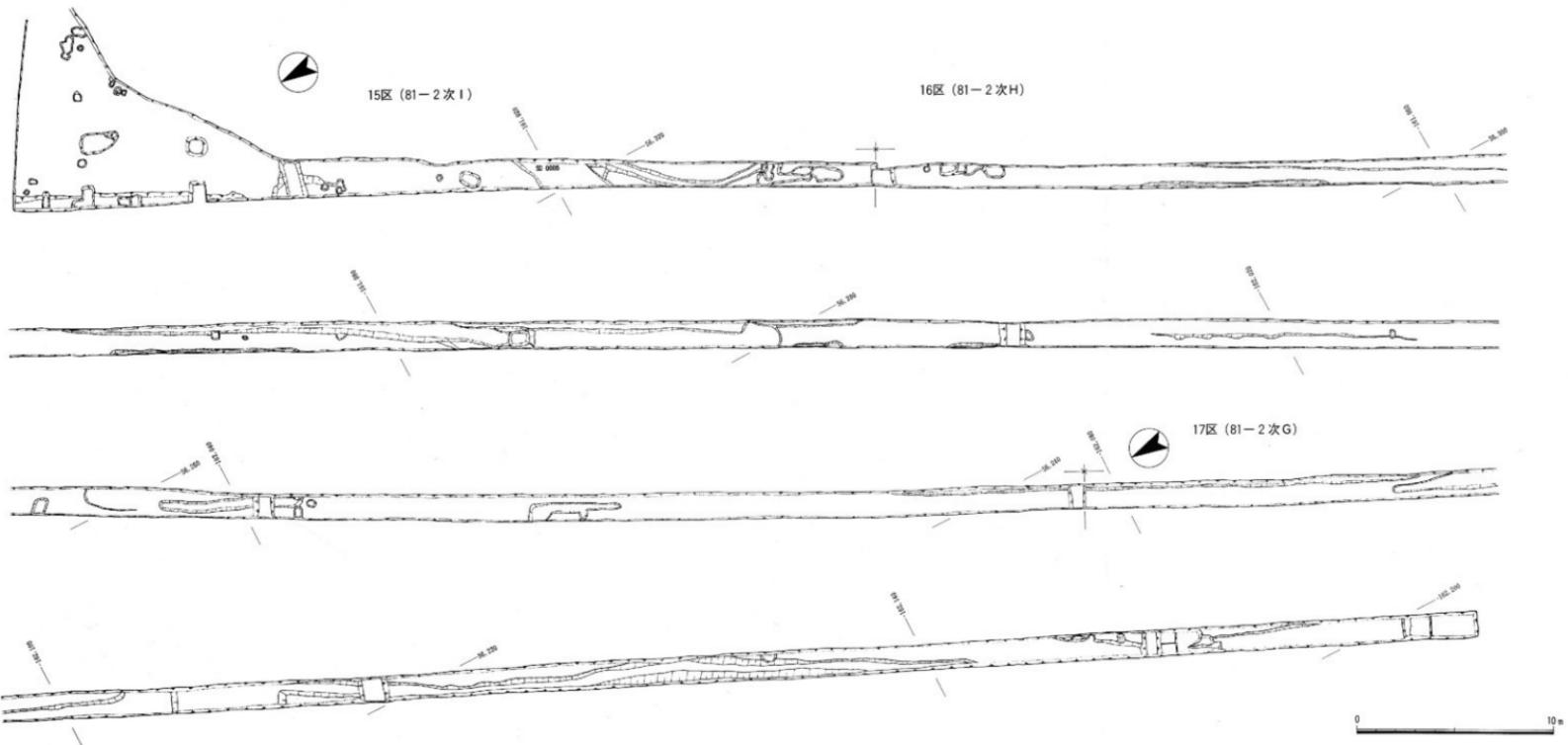


図6 遺構実測図3 15区・16区・17区 (1 : 200)

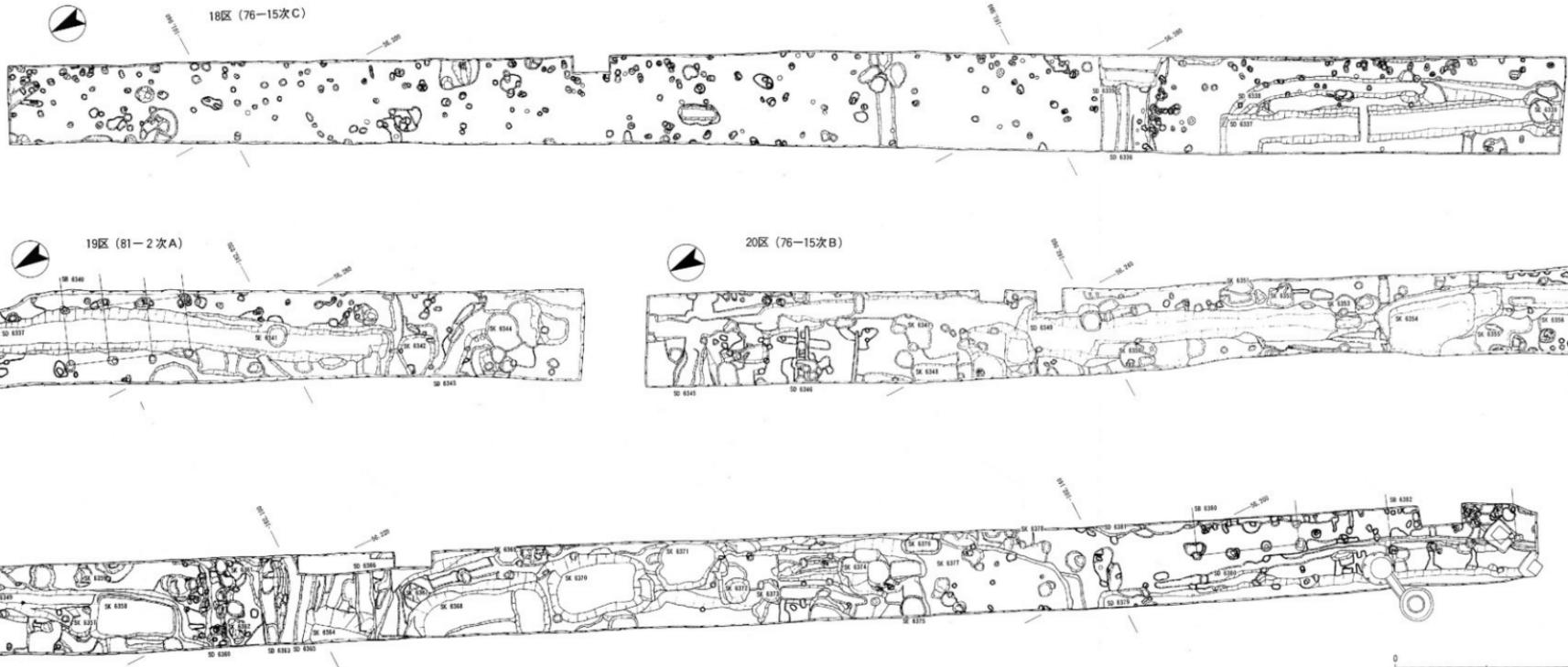


図7 造構実測図4 18区・19区・20区 (1 : 200)

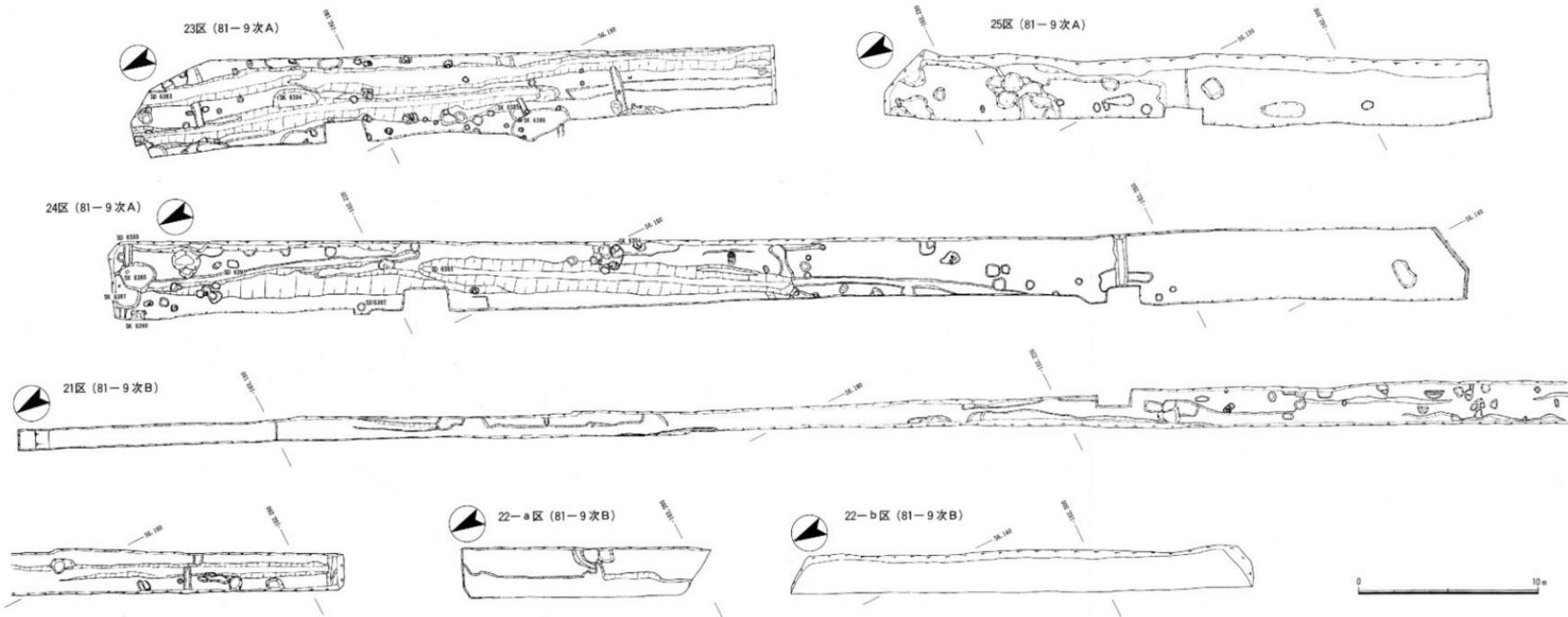


図8 遺構実測図5 21区・22-a区・22-b区・23区・24区・25区 (1 : 200)

判断できない。そのすぐ南のS B6382も南北方向は3間で東に延びる事がわかる。いずれも柱穴から土師器片が出土しているが、詳細な時期は不明である。

第14区のS E6339は直径約1.4mで、半裁して遺構面下約2.4mまで掘削を行った。室町時代の溝S D6337に上部を壊されている。平安時代後I期に属する土師器鍋・須恵器片が出土している。なお、約18mほど南の第19区S E6341も直径約1.2mで、ほぼ同じ規模・形状の井戸だが若干の土師器片などが出土したのみで、詳細な時期は不明である。

第12区のS K6328は奈良時代のS K6329などと重複しており、遺構の肩部は不明瞭だが、一边2.5m以上、深さ約10cmの方形を呈するものとみられる。平安時代初期の土師器杯・壺・須恵器壺片が出土している。第20区のS K6356は東を室町時代のS D6349に、西を調査区西壁に区切られているため全体の規模は不明で、遺構北肩には近世以降の焼器が埋められたピットが重複する。土塙の南北幅約2.6m、深さ約10cmを測る。平安時代初期の土師器杯・皿・壺が出土している。第20区のS K6361は、直径約1.1mの円形土塙で、前期の土師器杯が出土している。同区のS K6378も直径約1.0mの円形土塙で、平安時代末期とみられる土師器皿や高台付椀が出土している。第23区のS K6384は南北約2.6m、東西検出幅約1.0m、深さ約25cmの楕円形の土塙で、初期の土師器杯などが出土している。同じく円形土塙S K6385も初期の土師器皿がみられた。第24区のS K6390からは土師器片に混じって製塩土器が出土している。

第23区のS D6383はやや弯曲しながら北北東から南にのびる溝で、後期の土師器片・A類の黒色土器碗が出土した。

④ 鎌倉時代の遺構

墓2基、土塙4基、溝8条がある。

第10区のS X6320は直径およそ0.9m×1.0m、深さ約20cmの円形の土塙に長さ60～70cmほどの棒状の千枚岩が4本並べられたもので、鎌倉時代前半の土師器鍋、常滑産の壺が置かれている。また、遺構上層からは藤澤編年のIII-6型式に相当する山茶碗や龍泉窯系の青磁碗が出土した。千枚岩は2本ずつ向きを揃えているようにも見え、土塙の規模は小さいものの、棺台と考えるのが妥当と思われる。類似する遺構として第82次調査で見つかったS K5660上層には、やはり棒状の千枚

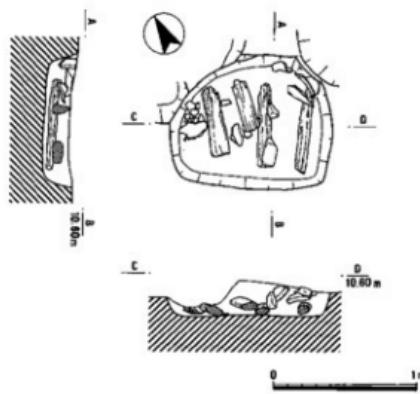


図9 S X6320実測図(1:40)

岩が土塹内に置かれていたが、この場合は千枚岩の配置が不規則になっている。第11区のS X 6326も直径約0.7m×0.8mの範囲に土器や礫が集中するもので、遺構の掘形は不明だが墓の可能性が高いと考えられる。鎌倉時代前半の土師器鍋や、常滑産の壺、片口鉢が出土している。

第14区から第16区にかかる溝 S D0005⁽¹⁾は、遺物はともなわなかったが、規模とその向きから近隣の第3次調査（古里遺跡B地区）や第4次調査（古里遺跡C地区）で確認されている鎌倉時代の大溝の一部と判断されたものである。遺構上端の幅が約2.8mほどで、調査区が狭小なため作業の安全上から完掘しなかった。

⑤ 室町時代の遺構

当該期と判断された遺構には土塹20基、溝8条がある。字中垣内付近、第75—15次調査区一帯に最も多く分布する。

土塹については第20区に集中しており、この中でまとまった量の遺物が出土したものについて記述する。第20区のS K6350は南北約2.5mの隅丸方形土塹で、底部は平坦である。土師器鍋・茶釜、常滑産壺が出土した。S K6364は奈良時代の土塹と重複する方形の土塹で、南北約4.0m、確認された東西幅は約2.2m、深さ約1.1mの大型土塹である。断面の形状は逆台形で底部は平坦になる。土師器鍋・皿片、常滑産壺・捏鉢の他、一石五輪塔が見つかっている。S K6368は幅2m強、南北約5.5m、深さ約80cmのやや弯曲した楕円形の土塹で、土師器鍋・羽釜の他、瀬戸産の三筋壺、常滑産の捏鉢などが出土している。S K6370は隅丸長方形の、南北5.5m、東西3.3m、深さ90cmの土塹で、土師器鍋・茶釜・羽釜・皿の他、瀬戸産の三筋壺、山茶椀、石臼や混入の黒色土器碗片が見られる。S K6374は南北1.7m、東西1.5m、深さ約1.0mのもので、土師器鍋、山茶椀、瀬戸産灰釉小皿などが出土した。S K6376は2.2m×1.0m、深さ約50cmの隅丸長方形で、相接するS K6377と並んで最も多量の遺物（整理箱で6箱）が出土している。大半が土師器鍋と茶釜で、若干の常滑産陶器片が混じる。S K6377は3箱の遺物が出土している。北の肩部にS E6375等が重複するが、おおむね南北約8.7m、東西の検出幅は4mを越える。北から南に緩やかに傾斜しており、底部の平坦な大型の土塹である。やはり土師器鍋・茶釜片が多く、羽釜片や石臼が混じる。

溝は第20区のS D6346を除き全てほぼ調査区の方向に沿い、北に対して約45°ほど東に振ったもので、北から南に傾斜する。第18区のS D6337は調査区西側から直角に折れて南に向かって45mほどのびる幅2m前後、深さ約70cmほどの断面逆台形の溝で、地割りの区画溝の可能性もある。土師器片や陶器片の他、円形に加工した青磁碗の底部が出土した。第20区のS D6349は幅約1.7m、検出長が約17.5m、深さ約30cmの南北溝で、土師器片、陶器片が出土している。S D6337～S D6343～S D6349と関連するものかもしれない。また、第20区から第23区にのびるS D6379からは土師器片や瀬戸灰釉陶器碗、天目茶碗の他、一石五輪塔が出土している。

(2) 遺物

① 繩文時代の遺物 (1)

第23区のSK6384の埋土から深鉢の口縁部片 (1) が出土した。口縁端部とその一段下に張り付け突帯を巡らせ、胴部に条痕文を施すもので、晩期末葉のものとみられる。斎宮跡での縄文時代の遺物・遺構の検出例は多くないが、金剛坂遺跡をはじめ、祓川に面する台地縁片には当該期の遺構の分布が想定できるものとみられる。

② 弥生時代の遺物 (2, 3)

第24区のSX6392出土の壺棺とみられる (2, 3) がある。いずれも弥生時代中期中葉に属するもので、胴上部から口頭部を欠失する。(2) は、ヘラ状工具で4重の同心円文を施すとみられるが、宮川村出土の一例を除き南勢地方一帯で同様の施文例は知られていない。

③ 奈良時代の遺物 (4~40)

主に土塙から土師器を中心に出土しており、須恵器は少量で細片が多い。大半は後期に属するもので、前期から中期にかけては細片が多く、資料としてまとまったものは少ない。その中で、第23区のSK6386は中期に属するものとみられ、土師器杯はe手法により後期的な傾向はあるものの、底部から口縁部にかけて若干内弯する形状をもつ。

第6区のSK6318は後期の資料が比較的まとまって出土している。土師器杯には口縁が内弯気味に立ち上がるタイプのもの (4, 7) と、おおむねまっすぐに立ち上がるもの (5, 6)、平安時代的なやや外反気味になるもの (10) がある。調整技法にはb手法とe手法がみられる。ミガキ・暗文はみられない。土師器皿にも口縁が稜をもって立ち上がるものと、内弯するもの



図10 出土遺物実測図1
SK6384 (1 : 2)

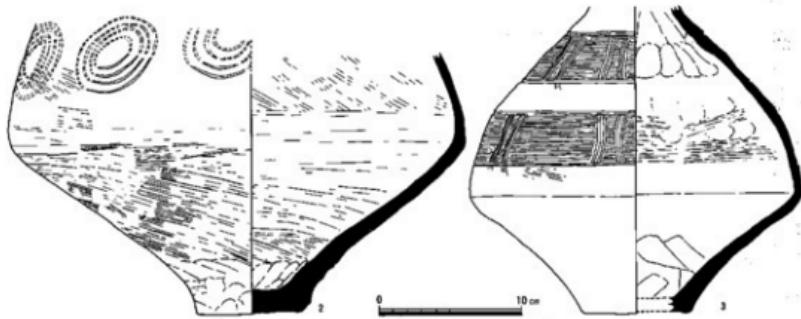


図11 出土遺物実測図2
SX6392; 2 + 3 (1 : 4)

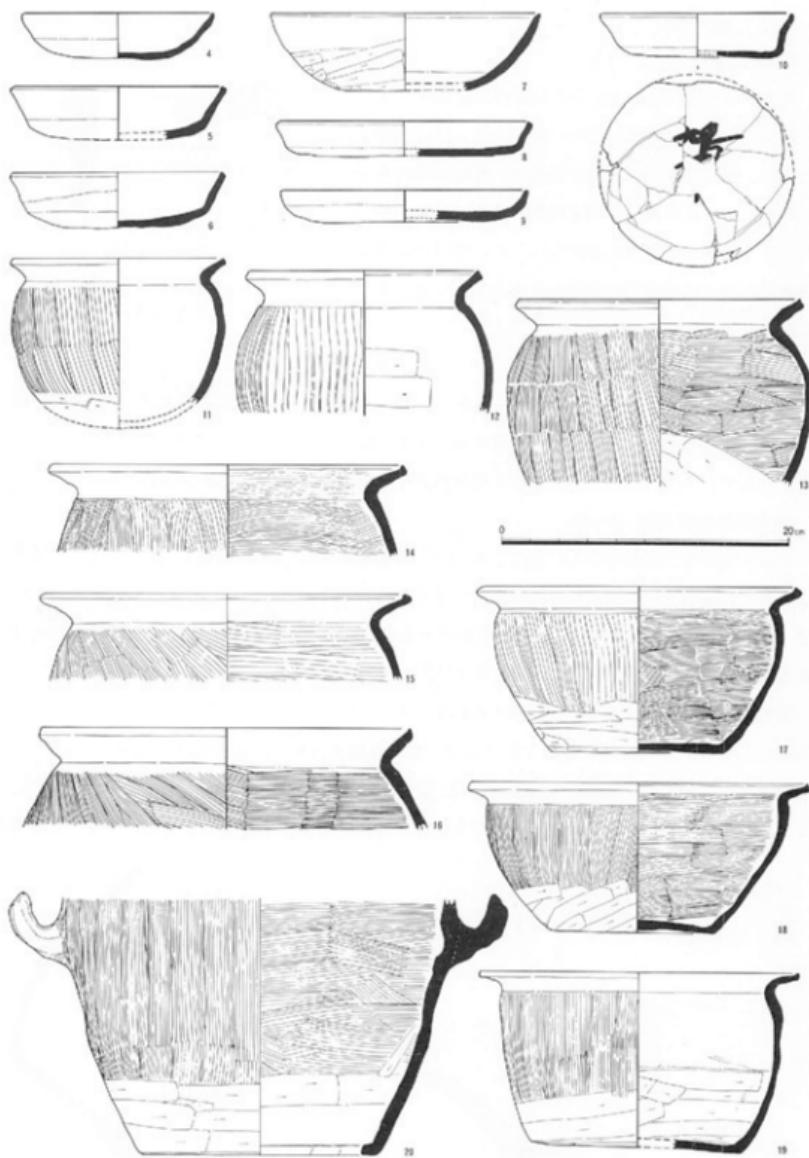


図12 出土遺物実測図 3 S K 6318 ; 4～20 (1 : 4)

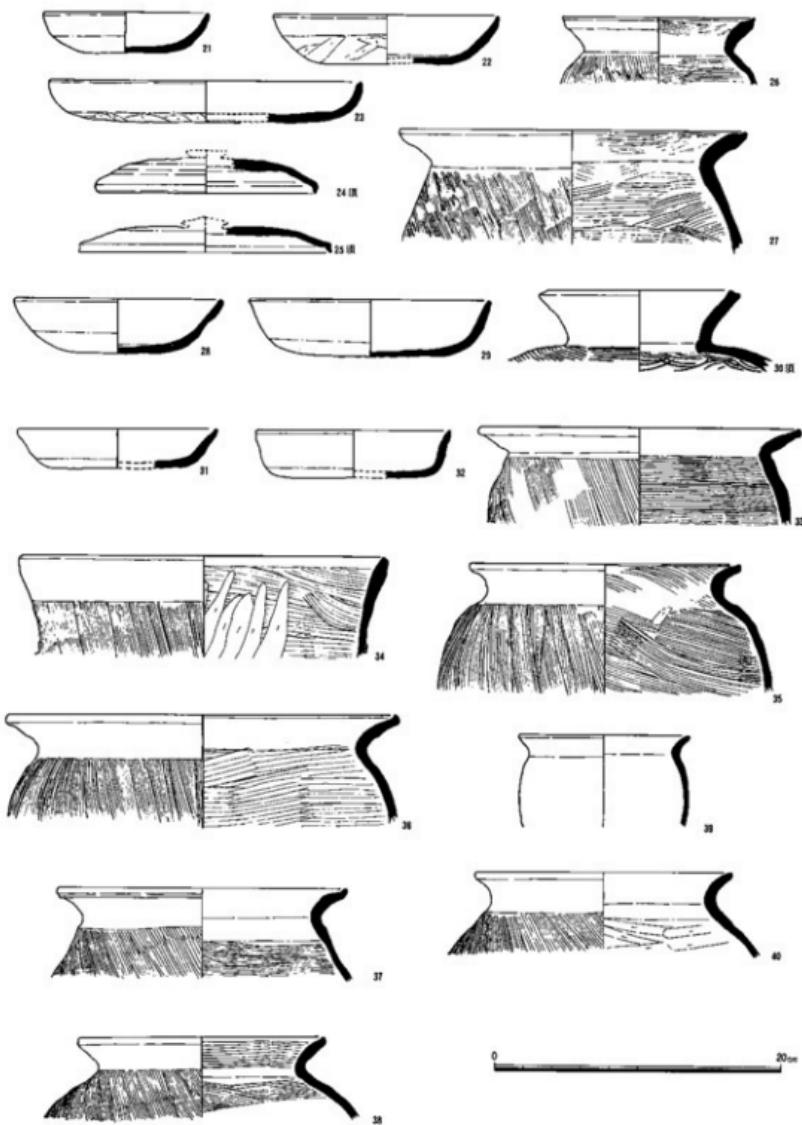


図13 出土遺物実測図 4
 S K 6344 ; 21~27 S D 6366 ; 28~30 S K 6386 ; 31~33
 S K 6388 ; 34~36 S D 6396 ; 37 S D 6399 ; 38~40 (1 : 4)

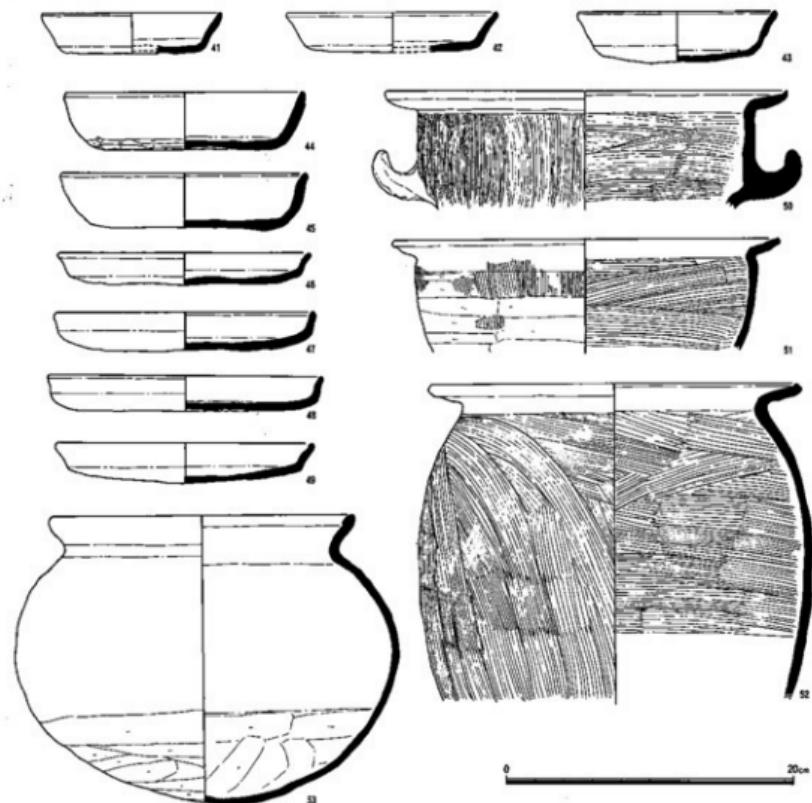


図14 出土遺物実測図 5 S K 6328 ; 41・42 S K 6356 ; 43~52 S E 6339 ; 53 (1 : 4)

があり、杯と同様 b 手法と e 手法が混在する。(10)には「鳩口」の墨書がある。煮沸形態の土師器には壺・小型壺・瓶・鍋があり(11~16, 20)、壺は一般的なもので口径約20~25cm、小型のもので約14~16cmにわかれれる。小型のものの胴部外面には粗いハケ目調整が施される。鉢(17~19)は口径約23cm、器高が10.5~12cmとサイズがそろっており、緻密な胎土で橙色の焼成の精製品である。いずれも平底になる。

④ 平安時代の遺物(41~53)

第12区のS K 6328の他、第20区のS K 6356からまとまって初期の土器類が出土している。土師器杯、皿類はいづれも口縁部をヨコナデするのみのe手法によるものが大半で、わずかにb手法のものも残る。特にS K 6356出土の土師器類は、橙色の緻密な胎土をもつ精良な仕上げで

焼成も堅敏である。鉢（51）まで同様の胎土・焼成であることからも非常に特殊なものである印象がもたれ、何らかの非日常的な使用のあり方も考えられる。

第18区のS E 6339からは後Ⅰ期の遺物が出土している。（53）はほぼ完形に近い形で出土した壺で、底部内外面がヘラケズリ調整される他は全面ナデ調整され、口縁端部は内側に折り返され丸くまとめられる。胎土には砂粒が多量に含まれる。

⑤ 錫倉時代の遺物（54～62）

墓と考えられる遺構からの出土が目立つ。第10区のS X 6320（54～59）からは瀬戸窯の藤澤氏の編年によるⅢ-7型式の山茶椀（55～57）、龍泉窯系の青磁碗片（58）、土師器皿（54）・鍋（59）が出土している。出土山茶椀から13世紀中葉のものと考えられる。土師器皿は底部から口縁部にかけて屈曲しながらやや内湾気味に立ち上がるもので、室町時代の大きく外側に開くタイプのものとの過渡的な様相を示している。鍋も口縁端部を内側に折り返す所謂「南伊勢系」の鍋だが、当該期のものでは比較的小型で、胴部も球形に近い形状を呈する。

第11区のS X 6326からは土師器鍋の他、片口の陶器捏鉢と常滑産の壺の下半部が出土している。土師器鍋は伊藤氏分類の第1段階b型式にあたるとみられ、おおむね13世紀中葉に位置づけられよう。S X 6320とS X 6326は近接した位置にあるが、前後関係は明確ではない。

⑥ 室町時代の遺物（63～126）

土塗および溝から、室町時代後半の遺物が出土している。

大半が土師器の鍋あるいは茶釜といった煮沸形態のもので、多くは多量の炭化物が付着し、使用的痕跡が明らかなものである。それに対し土師器皿類など供膳形態のものは、量的に少ない。鍋類はすべて口縁端部を内側に折り返す「南伊勢系」のもので、口径30cm前後を中心とする中型のものと、口径20cm強程度の小型のもの、口径は30cm程度だが胴部が半球形になるものがある。また、S K 6374の（95）や（97）のような形態のものは量的に少なく、系列なども不明である。ススの付着など明瞭な使用痕はみられないものの、ここでは鍋の一形式と考えておく。これらは先の伊藤氏の分類では第4段階の中に含められ、15世紀後半から16世紀代に位置づけられるものである。茶釜は口径が20～25cmにはば揃い、把手の残るものと消失した形態のものがある。皿はS D 6349の（63～67）のように体部を掌でおさえて成形し、口縁部が内弯するものと、S K 6374の（87, 88）のようにやや屈曲しながら外側に開くものがある。

室町時代の遺物として、他に五輪塔（120～126）がある。花崗岩か砂岩製で、（120）や（124）のように一石五輪塔になるとみられるものと、組み合わせ式になると考えられるものがある。なお、（126）は水輪のみだが、上面に砥石として再利用したと考えられる溝状の削痕が残る。

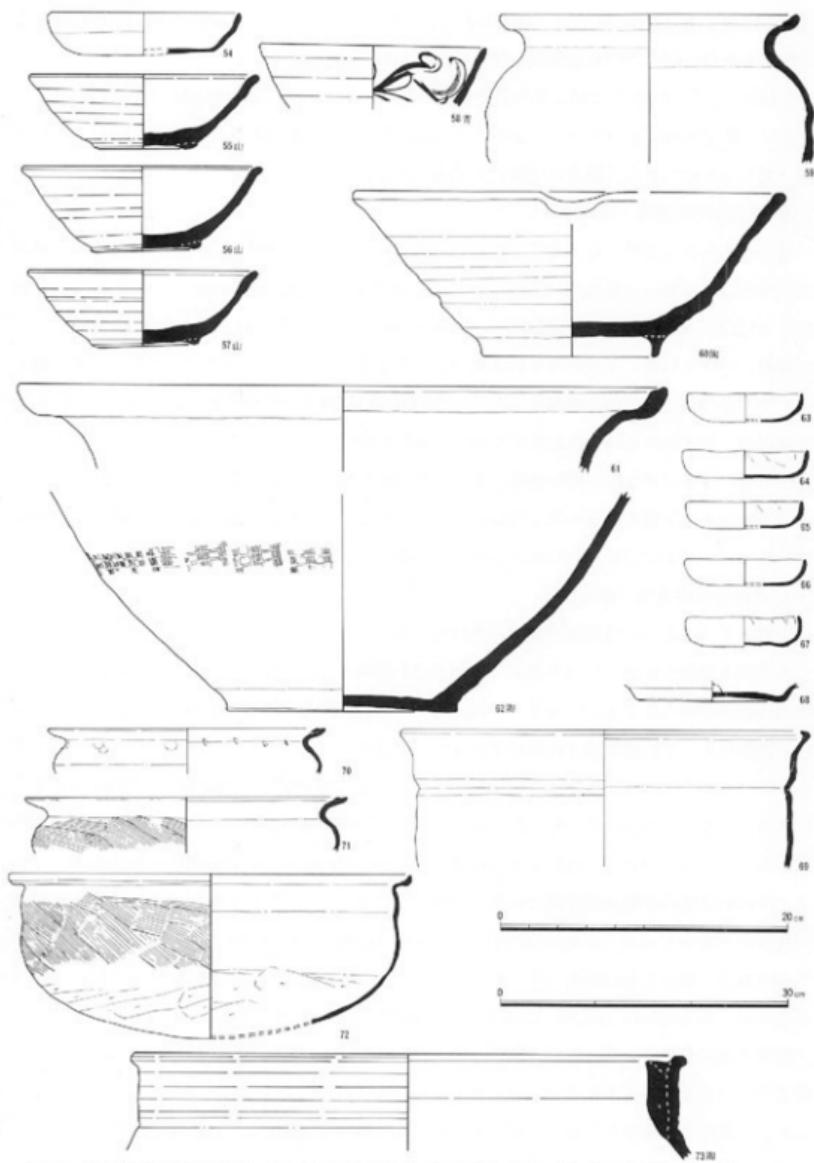


図15 出土遺物実測図 6
 S X 6320 ; 54~59 S X 6326 ; 60~62 S D 6349 ; 63~68
 S K 6368 ; 70・71 S K 6364 ; 72・73 (1 : 4 73のみ 1 : 6)

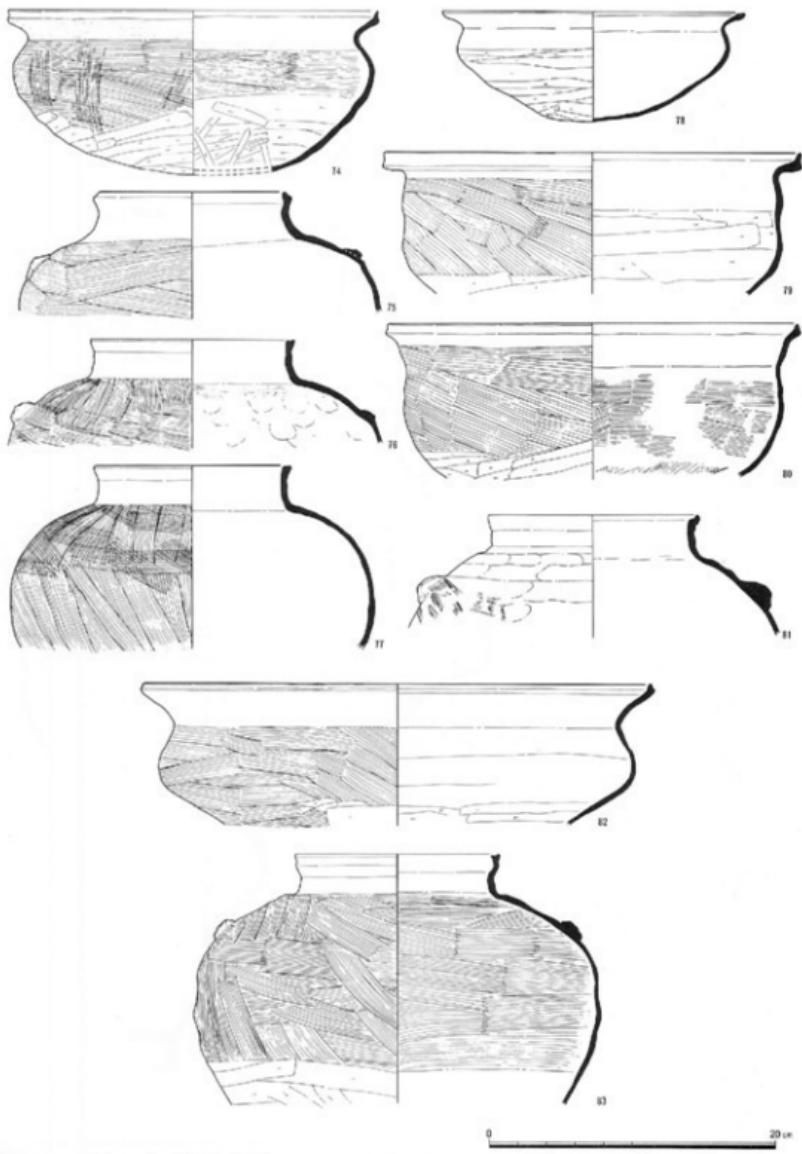


図16 出土遺物実測図 7 SK 6350 ; 74~77 SK 6370 ; 78~83 (1 : 4)

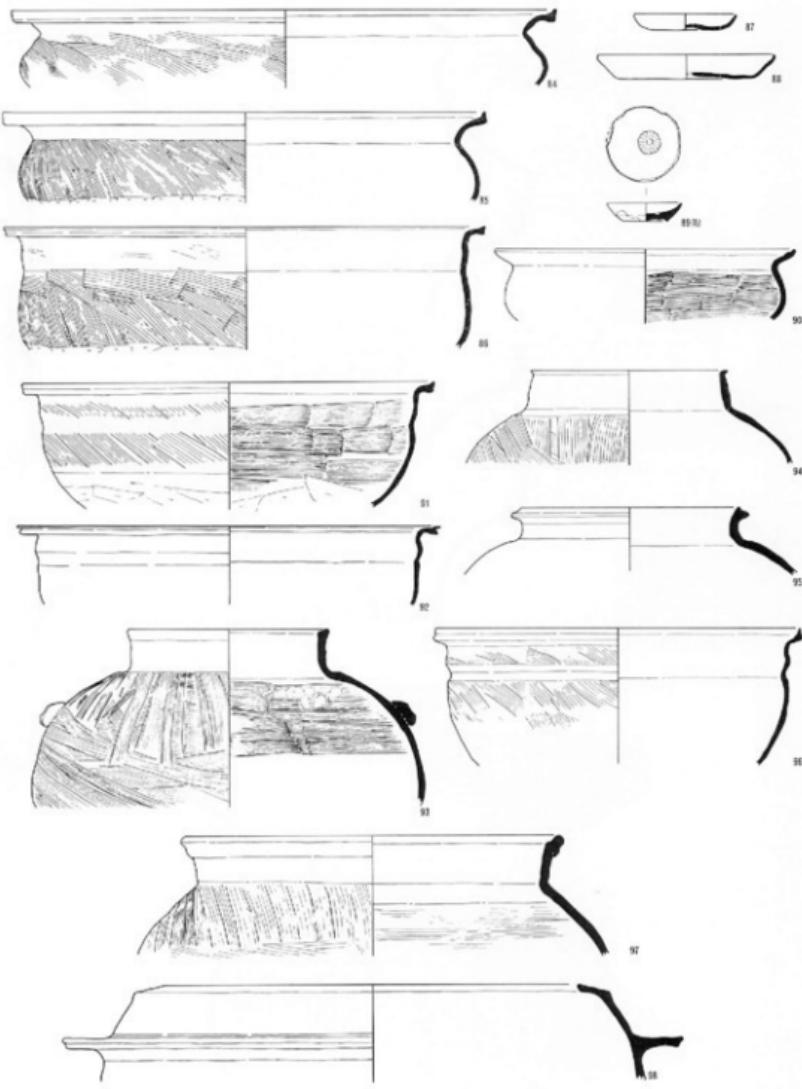


図17 出土遺物実測図 8 S K 6348 ; 84~86 S K 6374 ; 87~98 (1 : 4)

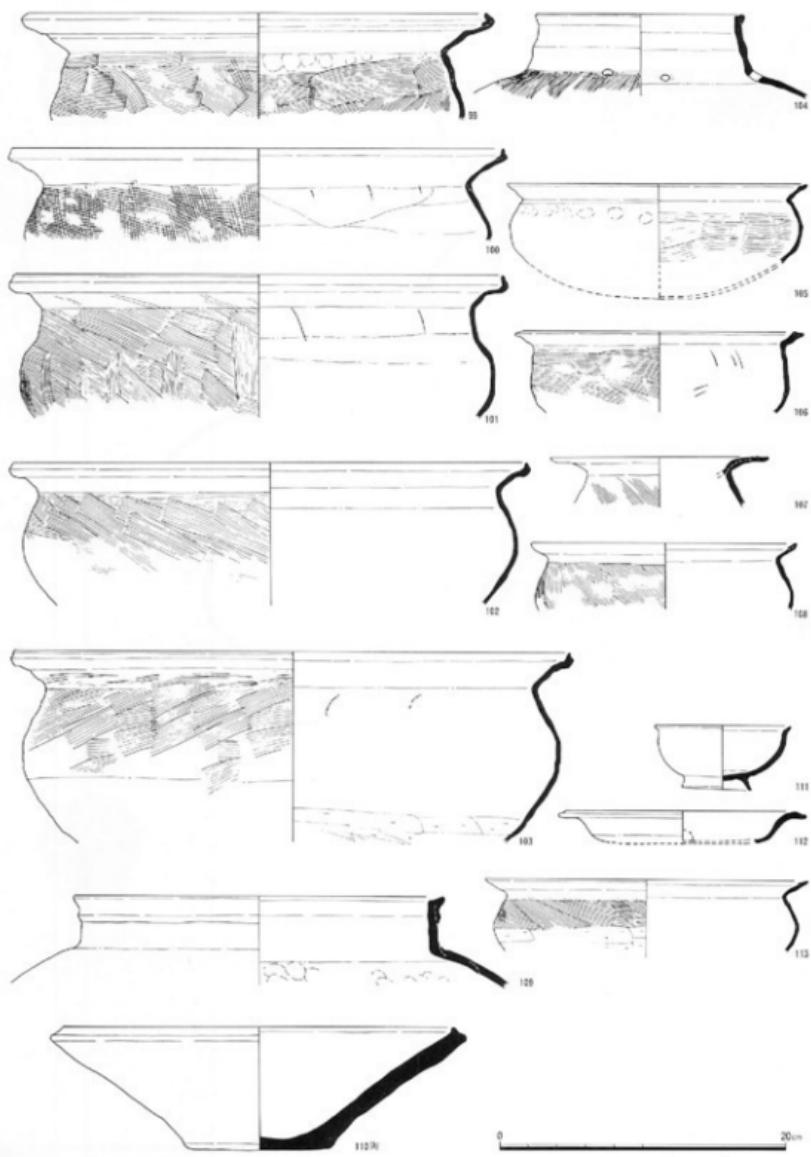


図18 出土遺物実測図 9
SK 6376 ; 99~110 SK 6377 ; 111~113 (1 : 4)

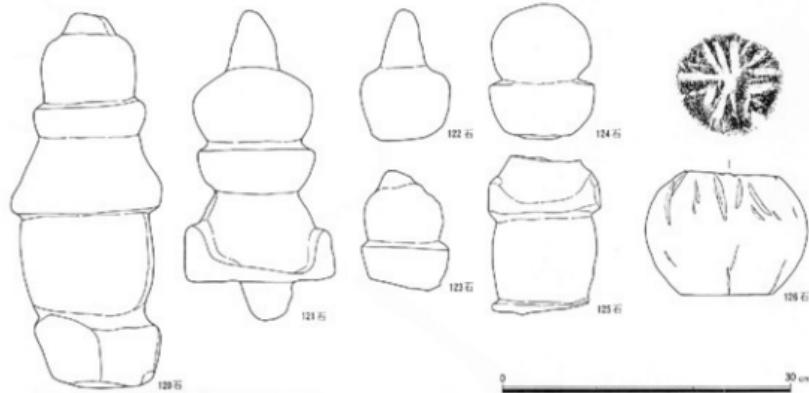
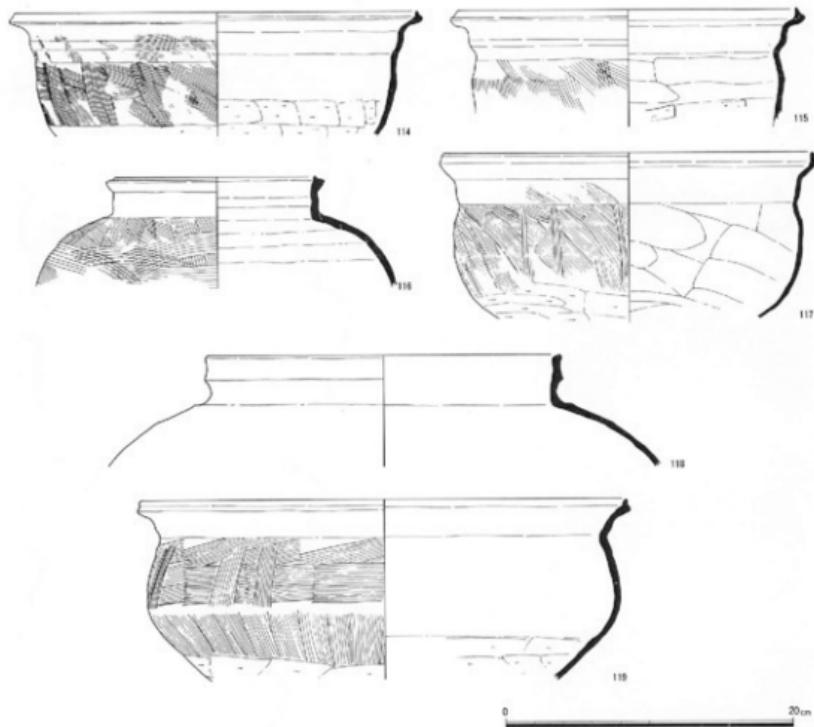


図19 出土遺物実測図10 S K 6377 ; 114~119 (1 : 4) S D 6379 ; 120・121
S K 6364 ; 122・123・125・126 S K 6354 ; 124 (1 : 6)

III. 調査のまとめ

今回は県道の拡幅事業にかかる調査のため、調査トレンチも幅4m以下と狭隘であるため、遺構の広がり等は明瞭にし得たとは言いたいが、奈良～平安時代の掘立柱建物や鎌倉時代の墓塚、室町時代の溝・井戸・土塙など多数の遺構や、鎌倉～室町時代を主とする多量の遺物が見つかった。殊に遺構の上では様々な問題点も提示されたといえる。

從来から史跡西部の古里地区周辺は、奈良時代と鎌倉時代の遺構が多いことが指摘されてきたが、史跡西部を南北方向に立ち割る形となった今回の調査も、基本的にはそれを裏付けることとなった。しかしながら S B 4830 を検出した第72次調査の概報にも述べられているように、この周辺でも僅かながら平安時代の掘立柱建物が分布することが知られるようになってきており

次 数	遺構番号	規 模 (間)	棟方向	柱間寸法	時 期	備 考
72-1	4 8 3 0	3×2	E 27°S	桁2.1m 梁2.1m	平安時代 前Ⅰ期	——
85-4	6 2 6 6	5×(2)	E 23°S	桁2.0m 梁1.8m	平安時代 末 期	総柱建物
76-15	6 3 8 0	3×-	N 22°E	桁1.9m 梁—m	平安時代	——
	6 3 8 2	3×(1)	N 21°E	桁2.3m 梁2.2m	平安時代	——
91	6 4 8 3	3×2	N 27°E	桁2.0m 梁2.1m	平安時代 後 期	第7次調査でも 検出
	6 4 8 5	3×2	N 33°E	桁2.1m 梁2.1m	平安時代 後 期	第7次調査でも 検出

表3 古里・中塙内地区周辺の平安時代掘立柱建物一覧

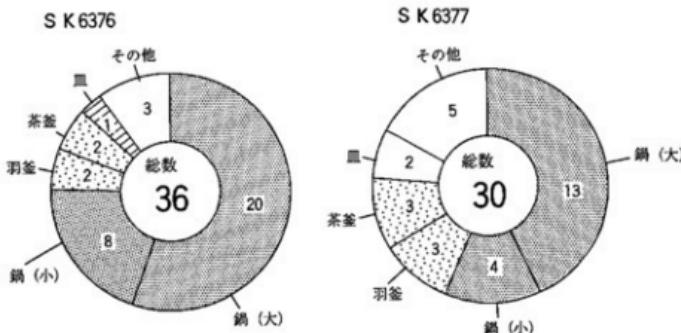


図20 室町時代土塙出土土器構成比率

り、現在までに前期から末期まで6棟が確認されている。柱間寸法が2m強の3間×2間程度の小規模なもので、建物の棟方向も史跡東部で確認されてきている方格地割と大きく違える。こうした建物と、史跡東部から中央部付近に展開していたと考えられている地割りに包摂される平安時代の斎宮寮とどのような関連があるのか今後の調査と検討を待たねばならない。

さらに遺構の上で注目される点に、第20区周辺を中心に発見された室町時代後半の土塙および五輪塔があげられる。この時期の土塙は直径が2.2~8.7mの不整形のもので、それぞれ土師器を中心として比較的多量の遺物が出土しているものが多い。中でもSK6376とSK6377からは多量の土器類が出土しており、その内訳の構成比率を表したグラフが図20である。個体数は、重複しない口縁部の破片数でカウントした。鍋・羽釜・茶釜など煮沸形態の土師器が高率を示していることが分かる。また、石製五輪塔もこれらの土塙から出土しており、こうした土塙の性格について、ひとつは土師器鍋類を転用藏骨器とみて墓に関連するものと考えることもできる。しかしながら1基の土塙から多数の鍋類が出土している状況と、また、出土した五輪塔はすべて欠損または砥石に転用されていることから考えると、一概に一帯を墓地などに想定することはできない。ただし、出土遺物の構成が著しく偏っていることは事実で、当該期の集落周縁部の一般的な廐棄用土塙とは性格を異にするものとも考えられる。これまでの調査で、鎌倉時代の遺構については、古里・中垣内地区などの史跡西部に集中することが知られていているが、それに続く斎宮廐絶以後の室町時代の集落などのあり方は不明である。第91次調査でも室町時代の小規模な掘立柱建物が6棟見つかっており、おそらく今回調査地の周辺に当該期の集落遺構が広がっているものとみられる。斎宮以後の地域史の構築のためにも、周囲の継続的な調査に期する所が大きい。

〔注〕

史跡北辺を巡るとみられている鎌倉時代の大溝については、従来いろいろな場でSD5あるいはSD50と呼ばれてきているが、現在斎宮跡の発掘調査で用いている四桁の遺構番号と合わせるために当報告ではSD0005と呼称する。

〔参考文献〕

- ① 藤澤良祐 「穴田南窯址群発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』II 1983
- ② 小林行雄・杉原莊介編 『弥生式土器集成』1964
- ③ 伊藤裕作 「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Mie history』vol.1 1990
- ④ 「III 第72次調査」『三重県斎宮跡調査事務所年報1987 史跡斎宮跡発掘調査概報』1988

表4 出土遺物(土器)観察表

以下に示すところのNoは本書遺物実測図の番号と一致する。器種の項では、それぞれ「～形土器」の表現を省略した。法量の「口径」は口縁端部の最高点を結んだ幅を示す。色調は農林水産省農林水産技術会議事務局他監修の『新版標準土色帖』(1988年度版)を参照した。登録番号は各調査次ごとに付される遺物・図面の整理・管理上の番号で、実測された遺物すべてに付されている。

No	調査 次 数	出土遺物	番 号	生 産	調査・性状の特徴	胎 土	焼 成	色 調	表 存 度(%)	備 考	登録番号
1	B1-9	青文土器 厚壁	S K6364	-	口縁に2段の突出部 内面に底部	径1mm以下の砂粒を 多量に含みやや粗	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	-		R 12
2	B1-9	野生土器 厚	S K6362	(口径) 31.8cm (底周) 15.3cm	側面外縁ハケ 底面内縁ハケ	径1～2mmの砂粒含 むが粗粒	良 好	外：浅黄褐 内：褐色	約40%	同心円文を施す	R 10
3	B1-9	野生土器 厚	S K6362	(口径) 23.0cm (底周) 21.4cm	外縁側面とナデ 内面ナデ	径1～5mmの小砂粒 含む	良 好	外：浅黄～明赤褐 内：浅黄	約60%	斜丁年に施錆あり	R 11
4	B1-2	土器器 杯	S K6318	(口径) 13.4cm (底) 3.2cm	口縁ヨコナデ 手平	細密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	約40%		R 2
5	B1-2	土器器 杯	S K6318	(口径) 15.0cm (底) 3.7cm	口縁ヨコナデ 手平	細密	良 好	外：粗 内：-	約40%		R 3
6	B1-2	土器器 杯	S K6318	(口径) 15.0cm (底) 3.9cm	口縁ヨコナデ 手平	細密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	約80%	外側に粘土巻き上 げ感あり	R 4
7	B1-2	土器器 杯	S K6318	(口径) 19.0cm (底) 5.3cm	底面下半ヘラケメリ 手平	細密	良 好	外：橙 内：浅黄褐	約40%		R 1
8	B1-2	土器器 杯	S K6318	(口径) 19.0cm (底) 2.8cm	口縁ヨコナデ 手平	細密	良 好	外：褐黄褐 内：手平	約40%		R 6
9	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 17.4cm (底) 2.8cm	口縁ヨコナデ 手平	細密	良 好	外：橙 内：-	約30%		R 5
10	B1-2	土器器 杯	S K6318	(口径) 13.4cm (底) 3.0cm	口縁ヨコナデ 手平	細密	良 好	外：橙 内：-	約70%	底部外側に「城口」 の墨書き	R 7
11	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 14.6cm (底) 10.1cm	外縁6本/2.5cmのハケ 内縁下マツリ、内面ナデ	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：にぶい黄褐 内：浅黄褐	約30%		R 14
12	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 16.2cm (底) 10.0cm	外縁3本/2cmのハケ 内縁ヘラケメリ	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：にぶい黄褐 内：橙	約40%		R 10
13	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 19.5cm (底) 12.8cm	外縁9本/1.8cmのハケ 内縁	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/4		R 15
14	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 25.0cm (底) 6.4cm	外縁10本/2.4cmのハケ 内縁10本/1.8cmのハケ	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/4		R 8
15	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 26.0cm (底) 6.2cm	外縁6本/1.8cmのハケ 内縁5本/1.7cmのハケ	細密	良 好	外：にぶい橙 内：-	口径の約1/5		R 16
16	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 25.7cm (底) 7.0cm	外縁11本/1.7cmのハケ 内縁	径1～2mmの砂粒含 む	中 等	外：西黄褐 内：-	口径の約1/6	内面鉄化物付着	R 27
17	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 22.5cm (底) 11.6cm	外縁4本/1.8cmのハケ 内縁外縁ヘラケメリ	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：橙 内：-	約50%		R 13
18	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 23.8cm (底) 10.4cm	外縁10本/1.8cmのハケ 内縁ヘラケメリ	細密な砂粒含むが粗 い	良 好	外：橙 内：-	約50%		R 12
19	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 22.2cm (底) 12.3cm	外縁11本/1.8cmのハケ 内縁ヘラケメリ	細密な砂粒含むが粗 い	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	約70%		R 11
20	B1-2	土器器 皿	S K6318	(口径) 16.2cm (底) 15.0cm	外縁5本/2cmのハケ 内縁外縁ヘラケメリ	細密な砂粒含むが粗 い	良 好	外：浅黄～褐黄褐 内：にぶい黄褐	約40%		R 9
21	B6-15	土器器 杯	S K6344	(口径) 11.6cm (底) 2.8cm	口縁ヨコナデ 手平	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：橙 内：-	完存		R 2
22	B6-15	土器器 杯	S K6344	(口径) 15.7cm (底) 3.4cm	底面下半ヘラケメリ 手平	1～2段の砂粒含む が粗	良 好	外：にぶい赤褐 内：-	口径の約2/5	粘土巻き合模あり	R 7
23	B6-15	土器器 杯	S K6344	(口径) 22.0cm (底) 3.0cm	底面下半ヘラケメリ 手平	細密	良 好	外：橙 内：-	約30%		R 3
24	B6-15	土器器 皿	S K6344	(口径) 15.1cm (底) 2.6cm	外縁上半部ヨコヘラ ケメリ(左回り)	径1～2mmの砂粒含 む	良 好	外：灰～オーライト 内：過火	約40%	内面に焼き跡 あり	R 4
25	B6-15	土器器 皿	S K6344	(口径) 17.6cm (底) 1.9cm	外縁上半部ヨコヘラ ケメリ(左回り)	1～2段の砂粒含む が粗	良 好	外：灰褐 内：にぶい赤褐	約30%	外側に一部剥かれて る	R 9
26	B6-15	土器器 皿	S K6344	(口径) 13.2cm (底) 4.6cm	外縁5本/2.8cmのハケ 内縁	細密な砂粒含むが粗 い	良 好	外：灰褐～褐黄褐 内：灰褐	口径の約1/4	外側一面にスミ付 着	R 10
27	B6-15	土器器 皿	S K6344	(口径) 24.0cm (底) 8.0cm	外縁12本/1.2cmのハケ 内縁5本/1.4cmのハケ	細密な砂粒含むが粗 い	中 等	外：にぶい橙 内：-	口径の約1/4	外側にスミ付着 内面に脱水化物付着	R 7

No	調査次数	出土遺物	番号	形 量	構造・技術的特徴	地 土	陶 成	色 調	残存度(%)	備 考	登録番号
28	76-15	土器脚 杯	S K6366	(口周) 14.6cm (高) 3.8cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	良 耐	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色～褐色	約90%	粘土器巻き上げ残 り	R 46
29	76-15	土器脚 杯	S K6366	(口周) 17.0cm (高) 4.0cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	良 耐	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色～褐色	ほぼ完了		R 47
30	76-15	土器脚 盤	S K6366	(口周) 14.0cm (高) 5.7cm	脚部内面平行タキ 内面内面同心円タキ 等を含むが密	底 1～2mmの淡石粒 底	良 好	外: 黄褐色～褐色 内: 淡白～褐色	口径の約3/5		R 48
31	81-9	土器脚 杯	S K6366	(口周) 14.0cm (高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	中や あまい	外: 淡い褐色 内: *	約90%		R 4
32	81-9	土器脚 杯	S K6366	(口周) 13.8cm (高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	堅 硬	外: 淡い褐色 内: *	約90%		R 3
33	81-9	土器脚 盤	S K6366	(口周) 22.0cm (高) 6.2cm	外面10cm×1.5cmのハケ 内面 *	底 1～2mmの砂粒含 むが密	良 耐	外: 淡い褐色 内: 淡黄褐色	口径の約1/4		R 5
34	81-9	土器脚 盤	S K6366	(口周) 25.8cm (高) 6.7cm	外面10cm×2.3cmのハケ 内面10cm×2.4cmのハケ とタリのケズリ	底 1～前後の砂粒含 むが密	良 耐	外: 淡黄褐色 内: *	口径の約1/4		R 9
35	81-9	土器脚 盤	S K6366	(口周) 19.0cm (高) 8.0cm	外面10cm×2.0cmのハケ 内面 *	底 1～前後の砂粒含 むが密	良 耐	外: 淡黃褐色 内: *	口径の約1/4		R 7
36	81-9	土器脚 盤	S K6366	(口周) 27.4cm (高) 7.5cm	外面10cm×1.5cmのハケ 内面6cm×1.8cmのハケ	底細な砂粒含むが密	良 耐	外: 淡い褐色 内: *	口径の約1/4	内面に炭化物付着	R 8
37	85-1	土器脚 盤	S K6396	(口周) 30.2cm (高) 6.3cm	外面10cm×2.3cmのハケ 内面 *	底 1～前後の砂粒含 むや粗	良 耐	外: 淡黄褐色 内: 淡白	口径の約1/3		R 1
38	85-1	土器脚 盤	S K6396	(口周) 17.2cm (高) 5.6cm	外面10cm×1.8cmのハケ 内面 *	底 1～前後の砂粒含 むが密	良 耐	外: 淡黄褐色 内: *	口径の約1/3		R 4
39	85-1	土器脚 盤	S K6399	(口周) 11.8cm (高) 6.0cm	外面ナデ 内面ナデ	底 1～前後の砂粒含 みや粗	良 耐	外: 淡褐色 内: *	口径の約1/4	内面に炭化物付着	R 3
40	85-1	土器脚 盤	S K6399	(口周) 17.9cm (高) 6.0cm	外面7本×1.2cmのハケ 内面 *	底	良 耐	外: 淡褐色 内: *	口径の約1/4		R 2
41	81-2	土器脚 杯	S K6326	(口周) 12.4cm (高) 2.9cm	口縁部ヨコナデ e 手作	2cm以下の砂粒多量 に含むが密	中や あまい	外: 淡い褐色 内: *	約90%		R 27
42	81-2	土器脚 杯	S K6326	(口周) 14.5cm (高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	良 耐	外: 淡い褐色 内: *	約90%		R 28
43	76-15	土器脚 杯	S K6356	(口周) 13.8cm (高) 3.5cm	口縁部ヨコナデ e 手作	底部1タケゼリ	軟質	良 耐	外: 淡 内: *	約40%	R 32
44	76-15	土器脚 杯	S K6356	(口周) 16.8cm (高) 4.0cm	e 手作	堅密	軟質	外: 淡 内: *	約90%		R 31
45	76-15	土器脚 杯	S K6356	(口周) 17.2cm (高) 3.8cm	調整不明 手かき	堅密	軟質	外: 淡黄褐色 内: *	約90%		R 30
46	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 17.6cm (高) 2.3cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	軟 質	外: 淡 内: *	約90%		R 37
47	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 18.2cm (高) 2.7cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	軟 質	外: 淡黄褐色 内: *	約90%		R 36
48	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 19.0cm (高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	軟 質	外: 淡 内: *	約90%		R 38
49	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 18.0cm (高) 2.8cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密	良 耐	外: 淡 内: *	約90%		R 36
50	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 20.0cm (高) 2.8cm	外周10cm×2.1cmのハケ 内面 *	堅密	中や あまい	外: 淡黄褐色 内: *	約90%		R 29
51	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 27.0cm (高) 7.8cm	外周14cm×2.1cmのハケ 内面 *	堅密	中や あまい	外: 淡 内: *	約90%		R 29
52	76-15	土器脚 皿	S K6356	(口周) 26.0cm (高) 22.0cm	外周11cm×2.5cmのハケ 内面 *	堅密な砂粒含むが密 に含む	中や あまい	外: 淡黄褐色 内: *	約90%		R 28
53	76-15	土器脚 皿	S K6359	(口周) 21.4cm (高) 5.1cm	脚部上半ナデ・オナニ 瓦面の外側にカズリ	底 1～2mmの砂粒多 量に含む	良 耐	外: 淡黄褐色 内: 淡黄褐色	約90%	体部上面にスミ付着	R 1
54	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 13.4cm (高) 3.0cm	口縁部ヨコナデ e 手作	堅密な砂粒含むが密 に含む	良 耐	外: 淡い褐色 内: *	約90%		R 18
55	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 16.0cm 山茶樹 (高) 5.1cm	ロクロ右脚輪	底 1～5mmの小砂粒 含む	良 耐	外: 淡白 内: 淡黄褐色	約90%	高台に焼成痕	R 21
56	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 16.8cm 山茶樹 (高) 5.7cm	ロクロ左脚輪	堅密な砂粒含むが密 に含む	良 耐	外: 淡白 内: 淡黄褐色	約90%	内面見込み部にスミ 状況付着	R 22
57	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 16.0cm 山茶樹 (高) 5.1cm	ロクロ右脚輪	底 1～3mmの砂粒多 量に含む	良 耐	外: 淡黄褐色 内: *	約90%	内面に一部剥か れ	R 20
58	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 16.0cm 西洋 (高) 4.1cm	内面に劃文花	堅密	良 耐	外: 淡黄褐色 内: *	約90%	難泉系	R 23
59	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 20.8cm (高) 11.5cm	外周上半ロクロナデ 外周下半ケズリ	底 1～6mmの淡石粒 多量に含む	良 耐	外: 淡黄褐色 内: 淡白～褐色	約90%	内面に炭化物、外 面にスミ付着	R 19
60	81-2	土器脚 皿	S K6320	(口周) 30.1cm (高) 11.5cm	外周上半ロクロナデ 外周下半ケズリ	底 1～6mmの淡石粒 多量に含む	良 耐	外: 淡白～褐色 内: 淡白～褐色	約90%	ロクロ附近に自然剥 がかかる、背面薄	R 24

編 號	調 査 次 数	出 土 遺 構	器 種	出 量	興 味 ・特 徴	出 土	機 械	色 調	残 存 度 (%)	備 考	登 録 場
61	81-2	S X 6326	土器部 品	(口徑) 45.3cm (底周) 5.9cm	口縁部ヨコナギ 底5mm以下の長石粒 内外面板状工具のナゲ 等を多量に含む	底1mm以下の砂粒多 量に含むが密	便 器	外: 淡黄 内: 淡白	口径の約2/5		R 25
62	81-2	S X 6326	陶 器 類	(底周) 24.3cm (底周) 22.0cm	外腹に一部タキマ痕 底5mm以下の長石粒 内外面板状工具のナゲ 等を多量に含む	底5mm以下の長石粒 内外面板状工具のナゲ 等を多量に含む	便 器	外: 淡 内: 淡	約50%	常滑灰	R 26
63	76-15	S D 6349	土器部 品	(口徑) 8.0cm (底周) 2.0cm	外腹ヨコナギ	微細な砂粒含むが堅 密	良 好	外: 淡黄 内: -	約50%	内面にヘリ当たり底 内: -	R 20
64	76-15	S D 6349	土器部 品	(口徑) 8.6cm (底周) 2.0cm	外腹ヨコナギ	微細な砂粒含むが堅 密	良 好	外: 淡黄 内: -	完存	内面にヘリ当たり底 内: -	R 17
65	76-15	S D 6349	土器部 品	(口徑) 7.8cm (底周) 1.9cm	外腹ヨコナギ	微細な砂粒含むが堅 密	良 好	外: にぶい赤褐 内: -	約50%	内面にヘリ当たり底 内: -	R 19
66	76-15	S D 6349	土器部 品	(口徑) 8.0cm (底周) 1.9cm	外腹ヨコナギ	微細な砂粒含むが堅 密	良 好	外: 淡白 内: -	約40%		R 18
67	76-15	S D 6349	土器部 品	(口徑) 7.8cm (底周) 2.1cm	外腹ヨコナギ	微細な砂粒含むが堅 密	良 好	外: 淡黄 内: -	約50%	内面にヘリ当たり底 内: -	R 21
68	76-15	S D 6349	土器部 品	(底周) 10.0cm (底周) 1.2cm	内外面ナゲ・ヨコナギ	微細	堅 硬	外: 淡 内: にぶい淡	約80%	外腹にタール状の墨 色付着	R 16
69	76-15	S D 6349	土器部 品	(口徑) 26.2cm (底周) 9.6cm	口縁部ヨコナギ 削痕ナゲ	微細	堅 硬	外: にぶい淡 内: にぶい青褐	口径の約1/4	外面多量のスヌ付着	R 22
70	76-15	S K 6368	土器部 品	(口徑) 19.2cm (底周) 3.1cm	網附ナゲ・底部内面に 等間隔のキズ有	微細	良 好	外: 明黄褐 内: -	口径の約1/4		R 51
71	76-15	S K 6368	土器部 品	(口徑) 22.4cm (底周) 3.8cm	外腹 7.5cm/cm のハケ 内面ナゲ	微細	良 好	外: 明黄褐 内: -	口径の約1/4		R 50
72	76-15	S K 6368	土器部 品	(口徑) 26.0cm (底周) 10.5cm	底部7.5cm/cm のハケ 底部内面ヘラケザリ	2mm前後の砂粒を多 量に含むが密	良 好	外: 明黄褐 内: -	口径の約1/2	外面多量のスヌ付着	R 49
73	76-15	S K 6364	陶 器 類	(口徑) 57.3cm (底周) 10.3cm	底部ヨコナギ 底部内面ヘラケザリ	砂粒を多量に含む やや軟質	中 等	外: 明黄褐 内: -	口径の約1/6	常滑灰	R 40
74	76-15	S K 6350	土器部 品	(口徑) 26.0cm (底周) 11.5cm	13.8cm/1.6cm のハケ 底部外腹ヘラケザリ	微細な砂粒含むが堅 密	良 好	外: 淡黄～灰黄 内: にぶい淡	約50%	外腹にスヌ付着	R 24
75	76-15	S K 6350	土器部 品	(口徑) 14.3cm (底周) 7.2cm	7.5cm/1.6cm のハケ 底部外腹ナゲ	微細	堅 硬	外: にぶい淡 内: み穴存	口縁部附近にスヌ付着		R 26
76	76-15	S K 6350	土器部 品	(口徑) 13.9cm (底周) 8.2cm	7.5cm/1.6cm のハケ 底部外腹ナゲ	微細	堅 硬	外: にぶい淡 内: み穴存	口縁部附近にスヌ付着		R 25
77	76-15	S K 6350	土器部 品	(口徑) 13.8cm (底周) 12.8cm	底部ナゲ 内面ナゲ	微細	堅 硬	外: 淡黄褐 内: にぶい淡	口縁部附近に多量のス ヌ付着		R 23
78	76-15	S K 6370	土器部 品	(口徑) 21.2cm (底周) 7.5cm	体部7.5cm/1.6cm のハケ 内面ナゲ	1mm前後の砂粒含む が密	良 好	外: 淡黄褐～黑 内: 淡白～黑	約50%	片面にスヌ付着	R 55
79	76-15	S K 6370	土器部 品	(口徑) 26.0cm (底周) 9.9cm	内面7.5cm/1.6cm のハケ 内面粗工具ナゲ	微細	良 好	外: 淡黄褐～黑 内: 淡黄褐	口径の約1/6	片面の一部にスヌ付着	R 57
80	76-15	S K 6370	土器部 品	(口徑) 26.0cm (底周) 10.7cm	内面10.5cm/1.6cm のハケ 内面粗工具ナゲ	微細	堅 硬	外: 淡黄褐 内: 淡黄褐	口径の約1/4	外面に多量のスヌ付 着	R 59
81	76-15	S K 6370	土器部 品	(口徑) 14.5cm (底周) 8.5cm	内外面ナゲ	微細	良 好	外: 明黄褐 内: -	内面手平部の み穴存		R 53
82	76-15	S K 6370	土器部 品	(口徑) 36.0cm (底周) 9.9cm	外腹 5.1cm/1.6cm のハケ 内面ナゲ	微細	堅 硬	外: にぶい黄褐～黑 内: にぶい青褐	口径の約3/5	外面にスヌ付着	R 56
83	76-15	S K 6370	土器部 品	(口徑) 14.4cm (底周) 17.6cm	内面8.5cm/1.6cm のハケ 内面手平ナゲ	微細	堅 硬	外: にぶい黄褐～黑 内: にぶい青褐	口径の約3/5	外面にスヌ付着	R 54
84	76-15	S K 6348	土器部 品	(口徑) 14.0cm (底周) 2.7cm	外腹 9.0cm/1.6cm のハケ 内面ナゲ	微細	良 好	外: にぶい黄褐 内: -	口径の約1/4		R 13
85	76-15	S K 6348	土器部 品	(口徑) 13.8cm (底周) 2.7cm	外腹 9.0cm/1.6cm のハケ 内面ナゲ	微細	良 好	外: にぶい黄褐～黑 内: にぶい青褐	約50%		R 12
86	76-15	S K 6348	土器部 品	(口徑) 22.0cm (底周) 6.5cm	外腹 8.5cm/1.6cm のハケ 内面ナゲ	1cm~2cmの砂粒含 むが密	良 好	外: にぶい淡 内: -	口径の約1/4	外面にスヌ付着	R 11
87	76-15	S K 6374	土器部 品	(口徑) 7.0cm (底周) 1.1cm	口縁部ヨコナギ 底部ナゲ	微細な砂粒含むが密	良 好	外: 淡 内: -	約50%	口縁部が一部焦化	R 61
88	76-15	S K 6374	土器部 品	(口徑) 12.0cm (底周) 1.7cm	口縁部ヨコナギ 底部ナゲ	微細	中 等	外: にぶい淡 内: あまい	約50%		R 62
89	76-15	S K 6374	陶器部 品	(口徑) 5.2cm (底周) 1.4cm	底部以外灰黒點がかかる	微細	堅 硬	外: 淡黄褐 内: -	ほぼ完存	見込み部に毫花文	R 75
90	76-15	S K 6374	土器部 品	(口徑) 21.0cm (底周) 5.0cm	外腹ナゲ	微細な砂粒含むが密	良 好	外: 淡黄 内: -	口径の約1/4	口縁部内面にスヌ付 着	R 71
91	76-15	S K 6374	土器部 品	(口徑) 20.7cm (底周) 8.7cm	外腹 8.5cm/1.6cm のハケ 内面12.0cm/1.6cm のハケ	微細な砂粒含むが密	良 好	外: にぶい淡 内: にぶい淡	口径の約1/4	外面にスヌ付着	R 68
92	76-15	S K 6374	土器部 品	(口徑) 29.5cm (底周) 6.0cm	外腹ハケのちナゲ 内面ナゲ	微細な砂粒含むが密	良 好	外: 淡白 内: 淡黄褐	口径の約1/4	外面にスヌ付着	R 69
93	76-15	S K 6374	土器部 品	(口徑) 17.9cm (底周) 6.0cm	外腹 7.5cm/1.6cm のハケ 内面12.0cm/1.6cm のハケ	微細な砂粒含むが密	良 好	外: 淡白 内: 淡黄褐	上半部保存	外面に多量のスヌ付 着	R 64

No	調査 次 数	出土遺構	形 様	法 量	調査・技術の特徴	施 工	発 成	色 調	残 存 度(%)	備 考	登録番号	
94	76-15	S K6374	土師器 系 盆	(口周) 13.4cm (底面) 6.5cm	外周11本/2.1cmのハケ 内面ナデ	豊富な砂粒含むが多 く	良 好	外：灰赤褐色 内：-	口径の約1/4	外周スス付着	R 67	
95	76-15	S K6374	土師器 系 瓶	(口周) 15.0cm (底面) 4.6cm	外周6本/底のハケ 内面ナデ	1mm以下の砂粒多量 に含む	良 好	外：にぶい黄 内：-	約60%		R 72	
96	76-15	S K6374	土師器 系 瓶	(口周) 25.2cm (底面) 9.6cm	外周6本/底のハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：黒褐色 内：にぶい黒	口径の約1/4	外周スス付着	R 66	
97	76-15	S K6374	土師器 系 瓶	(口周) 25.8cm (底面) 8.5cm	外周6本/1.2mmのハケ 内面ナデ	0.5mm~1mmの砂粒 を含む	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/3		R 60	
98	76-15	S K6374	土師器 系 瓶	(口周) 39.8cm (底面) 6.7cm	外周6本/底のハケ 内面ナデ	2mm以下の砂粒含む	良 好	外：灰白 内：-	口径の約1/4	胴部下半スス付着	R 73	
99	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 32.0cm (底面) 7.6cm	外周7本/底のハケ 内面11本/底のハケ	緻密	良 好	外：にぶい黄 内：-	口径の約1/6	胴部外周にスス付着	R 87	
100	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 34.4cm (底面) 6.5cm	外周7本/底のハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：にぶい黄 内：-	口径の約1/3	胴部外周にスス付着 内面にヘラ巻たり模	R 86	
101	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 34.0cm (底面) 10.0cm	外周11本/2.5mmのハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：にぶい黄褐 内：灰青色	口径の約1/3	胴部外周にスス付着 内面にヘラ巻たり模	R 81	
102	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 36.0cm (底面) 9.9cm	外周11本/1.5mmのハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/5	内面にコゲ付着	R 78	
103	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 39.4cm (底面) 13.4cm	外周9本/1.8mmのハケ 内面ナデへケタメジリ	緻密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/4	胴部外周にスス付着 内面にヘラ巻たり模	R 76	
104	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 14.2cm (底面) 5.7cm	外周6本/2.1cmのハケ 内面ナデヘケタメジリ	緻密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約3/4	内面に若干スス付着	R 77	
105	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 21.0cm (底面) 5.5cm	外周6本/1.8mmのハケ 内面6本/底のハケ	緻密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/3	ほとんど使用痕なし	R 79	
106	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 18.8cm (底面) 5.7cm	外周11本/底のハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：にぶい黄 内：-	口径の約1/4	外周にスス付着 内面にヘラ巻たり模	R 89	
107	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 15.2cm (底面) 3.3cm	外周7本/底のハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：にぶい黄褐 内：-	口径の約1/2	外周上面に変色化 付着	R 85	
108	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 18.4cm (底面) 4.7cm	外周9本/底のハケ 内面ナデヘケタメジリ	緻密	良 好	外：灰 内：あまい	口径の約1/4	外縁部上部にスス付 着	R 88	
109	76-15	S K6376	土師器 系 瓶	(口周) 26.0cm (底面) 6.0cm	外周7本/1.8mmのハケ 内面ナデ、オサヌ	緻密	良 好	外：にぶい黄 内：にぶい鉛黃褐	口径の約1/4		R 84	
110	76-15	S K6376	陶 器	(口周) 27.8cm (底面) 8.7cm	外周ナデ、オサヌ 内面ナデ	5mm以下の砂粒を含 む付着	良 好	外：灰 内：灰青色	口径の約1/4		R 83	
111	76-15	S K6377	土師器 系 杯	(口周) 9.5cm (底面) 4.6cm	外周6本/底のハケ 内面ナデ	体部の外周へケタメ ジリ	緻密	良 好	外：灰茶褐色 内：-	約65%	貼付高台	R 91
112	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 17.1cm (底面) 2.0cm	外周6本/底のハケ 内面ナデへケタメジリ	緻密	良 好	外：灰茶褐色 内：-	口径の約1/3		R 93	
113	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 22.4cm (底面) 5.0cm	外周6本/底のハケ 内面ナデ	ケタメジリ	緻密	良 好	外：灰 内：-	口径の約1/4		R 96
114	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 26.0cm (底面) 8.6cm	外周6本/底のハケ 内面ナデ、ケタメジリ	緻密	良 好	外：明褐色 内：-	口径の約1/6	使用痕見られない	R 97	
115	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 23.2cm (底面) 7.3cm	外周6本/1.5mmのハケ 内面ナデ、ケタメジリ	緻密	良 好	外：にぶい黄 内：-	口径の約1/5	全外周に多量のスス 付着	R 96	
116	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 14.0cm (底面) 7.6cm	外周6本/1.6cmのハケ 内面ナデ	緻密	良 好	外：灰青色 内：-	口径の約1/3	体部外周にスス付着 内面に紺紙粘合痕	R 94	
117	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 25.6cm (底面) 11.0cm	外周12本/2cmのハケ 内面ナデ	ケタメジリ	緻密	良 好	外：にぶい鉛黃 内：-	口径の約1/2	体部外周に多量のス ス付着	R 80
118	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 24.8cm (底面) 7.6cm	外周ナデ	0.5mm程度の砂粒を 含む	良 好	外：灰 内：-	口径の約1/2	外周に剥離感有	R 92	
119	76-15	S K6377	土師器 系 瓶	(口周) 33.9cm (底面) 12.6cm	外周12本/2.4cmのハケ 内面ナデ、ケタメジリ	緻密	良 好	外：灰茶褐色 内：-	口径の約1/2	外周にスス付着	R 90	

表5 据立柱建物一覧表

遺構番号	規 模	棟方向	桁行	梁行	柱間寸法		時 期	備 考
					桁行	梁行		
6340	3×(1)	N21° E	6.6m	(3.0)	2.2m	3.0m	奈良後?	楕柱建物
6380	3× -	N22° E	5.7m	—	1.9m	—	平安	
6382	3×(1)	N21° E	6.9m	(2.2)	2.3m	2.2m	平安	

図版



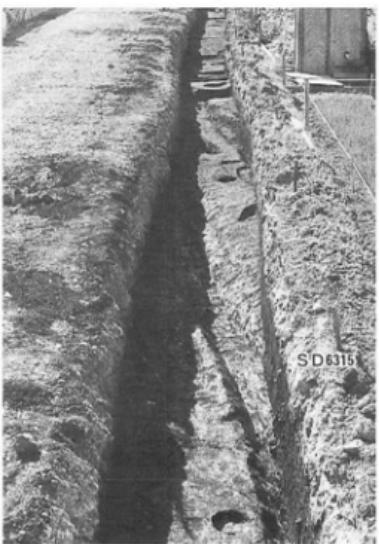
1区北半全景（南から）



1区全景（南から）



5区全景（東から）

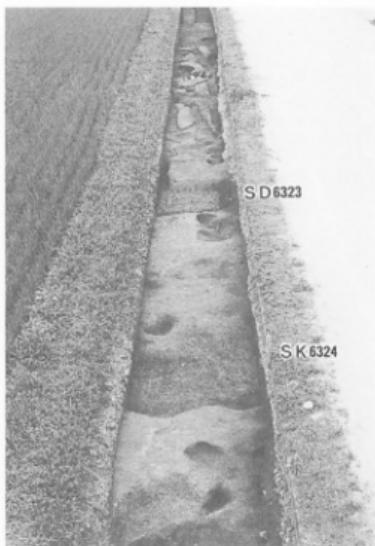


5区東半（東から）

P L.2



6区全景（北から）



10区全景（南から）



10区 S X 6320（北から）

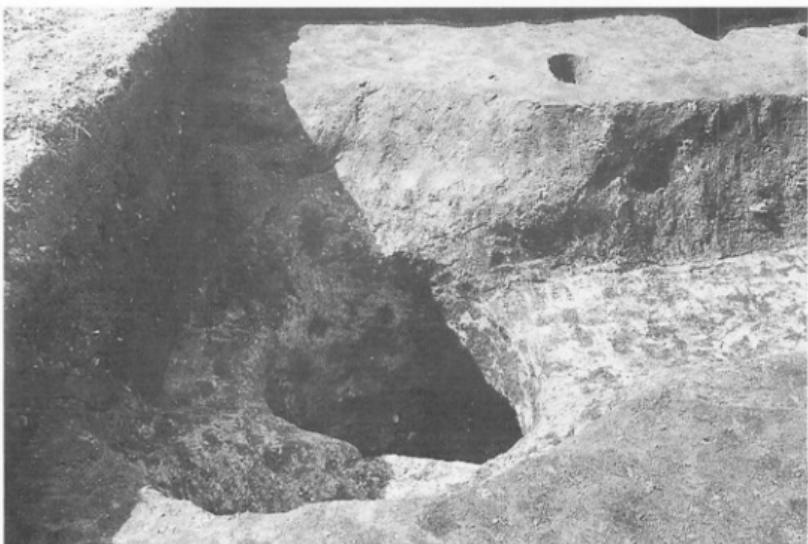


18区全景（北から）

P L. 4



18区南半（北から）



18区 S E 6339 (東から)



19区 S D 6337 (北から)

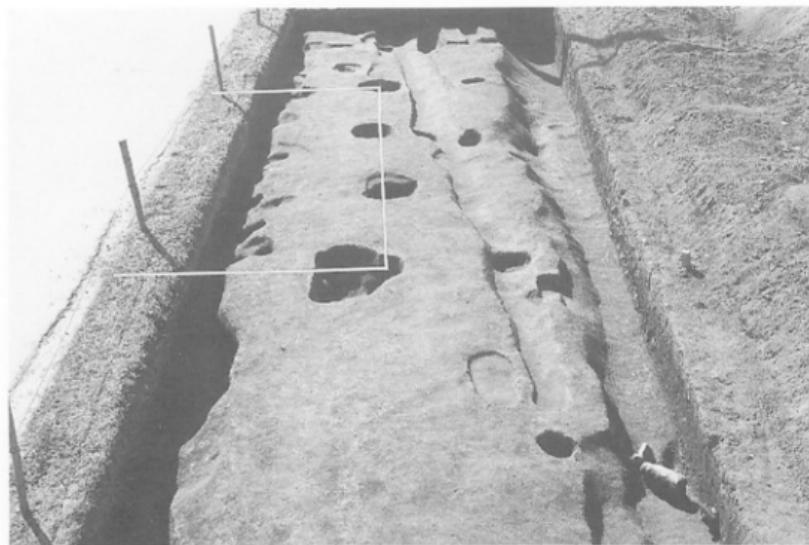


20区 S D 6343 (北から)

PL.6



20区 奈良時代古道周辺（北から）



20区 S B 6380（北から）



20区 S B 6382 (北から)



23区 S D 6379・S D 6383 (北から)

P L.8



2



45



44



3



49



47



18



48



6



19



21



28



17



29



53



54



55



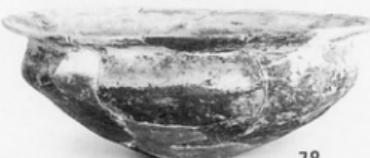
57



56



59



78



60

史跡斎宮跡

県道南藤原・竹川線発掘調査報告

平成3年3月31日

編集発行 斎宮歴史博物館
印 刷 光出版印刷株式会社

